

Ⅱ 各教科編集の概要

1 国 語

1 編集の具体的方針

- (1) 1学年を5冊分とし、各学年の第5巻を資料編とした。

資料編は、原典の「1年の文法のまとめ」、「2年の文法のまとめ」、「考える文法」、「言葉を考える」、「小学校6年生で学習した漢字」、「漢字の使い方に慣れよう」、「付録」及び「付表」とし、次の部分を削除した。

1年 「1年で学習した漢字」、「小学校学習漢字音訓表」

2年 「1・2年で学習した漢字」

3年 「常用漢字」(付表を除く)

※ 「1年で学習した漢字」と、「1・2年で学習した漢字」及び「常用漢字」のうち各学年で学習した漢字は、各教材末の「新出漢字」の箇所に分割して掲載した。

- (2) 各学年の資料編に、点字表記法の学習教材「点字の書き方」を追加した。第1学年にはその全文を、第2学年及び第3学年には「書き方の形式」以後を再録した(資料1)。

- (3) 全学年を通して、原典の教科で全文を削除したものはない。また、できるだけ原典に忠実に点字化するように配慮したが、細かい点では、次のような修正を行った。

① 普通の文字の表記を点字にかえるに当たっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応措置を図った。

② 表、図、グラフ等は、点字表記の可能性と生徒の理解度を考慮して、修正したり、削除したりしたものがある。したがって、指導の際には、適切な補助教材で読解を助けるように配慮することが大切である。

③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、生徒の理解度を考慮して、修正を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。

④ 地図は、内容を読み取る上で不可欠なものに限り、修正を加えた上で、点図で掲載した。

⑤ 「右の」、「左記の」、「上の」、「下の」などの表現をそれぞれに「これらの」、「下記の」、「前の」、「後の」などの表現に修正した。

⑥ 「注」は原則として、見開き2ページ分を、奇数ページ末に掲載した。

⑦ 記号等の修正は、読解を助ける場合に限って行い、原則として原典どおりとした。

- (4) 各学年の巻頭にある「学習の計画を立てよう」は、内容を分冊ごとに分け、それぞれの巻頭にまとめて掲載した。

◇「学習の内容」にある太字は第1カギで囲んで示し、□欄以降は次のように修正した。

できたこと、さらに取り組みたいことなど、確認をしてみよう。

- (5) 「この教科書で学習するみなさんへ」は、特に次のような修正を行った上で、分冊ごとに掲載した。

▼→削除。他の記号も削除し、第1カギで囲んで示した(資料2)。

- (6) 教材の初めに、・印で示された内容は、第1星印を付けて示した。

- (7) 各教材末の「新出漢字」は、文中の語句(活用語の場合は切れ続きを基準にする)を抜き出して音訓と共に示し、「付録」の用例の順に掲載した。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2

つなぎ符を用いて示した。

〔原典 第1学年 22ページの例〕

「震」える (シン□ふる□□う□ふる□□える) □□地「震」□□「震」源。

- (8) 各教材末の「新出音訓」は、第1カギで示し、既習の音訓を第1カッコで示した。

〔原典 第1学年 22ページの例〕

工「夫」(フ□おっと)

- (9) 古典教材は、次のように点訳した。

- ① 和語は歴史的仮名遣い、漢語は現代語の表記で点訳した。ただし、原典において、漢語に歴史的仮名遣いによる振り仮名がつけられている場合は、欄外の注にその振り仮名を掲載した。
- ② 本文中の歴史的仮名遣いの読み方は、該当する語句に第1カッコをつけて示した。
- ③ 原典で古文と現代文とが上下対照に掲載されている教材は、点字教科書でも同様の割り付けをした。
- ④ 漢詩・漢文の表記は、原則として書き下し文を掲載した。ただし、教材の理解を助ける意図から、第2学年の「漢詩の風景」の漢詩は漢文の点字表記を、書き下し文の後に掲載した。「漢文を読む」にも同様の表記を掲載した。

- (10) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、普通の文字200字を点字32マス11行と対応させた。

「例」400字(原典) → 400字(点字32マス22行)

- (11) 「漢字の学習」は、字形に関するものは生徒の理解度を考慮して修正を加え、必要に応じて点線文字で示した。同音異義語や同音異字については、漢字を音と訓とで併記するか、または同様の意味をもつ別の熟語を示した。その際、漢字の音訓は、第1学年の原典付録2「小学校学習漢字音訓表」と第3学年の原典付録1「常用漢字表」によった。
- (12) 第2学年及び第3学年の「漢字に慣れよう」は、(11)の「漢字の学習」と同様の配慮で修正を加えた上で、必要に応じて盲生徒の読み書きの習熟を促すことを意図した点字表記の学習課題に差し替えた。
- (13) 各学年の単元の扉には、その教材に関連した線画を入れた。

2 編集の具体的内容

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 |
|----|-------|-----------|----------|--|-------------|
| 1年 | 13～16 | | 修正 | 写真の扱い→ 次のような写真がある。 1. 夕日を背景にして、何人かの人が立っている。 2. 拳銃の跡の残る白い壁の前で、3人の少年がカメラに向かっておどけている。 3. ラグビーの試合で、トライを決めた瞬間。 4. 降り積もった雪の中で、小猿が雪玉を抱えて立っている。 5. 若い木の芽が二つ写っている。 6. 粗末なベッドの上に赤ん坊が寝ており、その周りを少年少女が囲んでいる。 7. 蛙の形をした橋。(扉絵参照) 8. 田植えの帰り、泥だらけの少女がおじいさんとおばあさんと手をつないでいる。 9. 単線のさびた線路の上に、1匹の猫がいる。 10. 移動するキャラバン隊を背に、銃を背負った少年が立っている。 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 22 | 5 | 修正 | , 印を書き入れたり, 線を引いたりして, 一気をつけて, | 点字の特性を考慮して。 |
| | 35 | 下 | 修正 削除 | 読みやすい→見やすい ・大きな文字で書く。 | |
| | 38 | 上11 下5 | 修正 削除 | 色をつけたり→符号をつけたり 色鉛筆 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 39 | | 修正 | 点字の特性を考慮したノート例にする。(資料3) | |
| | 41 | 上7 | 削除 | (□は6年生で学習した漢字) および青色枠。 | |
| | | 上9～ | 修正 | 文字の傍線は「」に修正。 | |
| | 42 | 下 | 修正 | 図を資料4に修正し43ページ3行目の後に挿入。(資料4) | 点字の特性を考慮して。 |
| | 43 | 下 | 修正 | 表は43ページ11行目の後に挿入。 | |
| | 45 | 上 | 補足 | なぞなぞの①～③の漢字は、点線文字を添える。 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | | 下 | 修正 | 次の漢字で問題を作ってみよう。→次の漢字で考えてみよう。 | |
| | 46～47 | | 修正 | 図とへん, つくり, かんむり, あし, たれ, によう, かまえは点線文字で示す。漢字例は音と訓で表す。(資料5) | |
| | 48 | 上 11～ | 修正 | 比べてみよう。→比べてみると, ちがいがあることがわかる→ちがいがあ | |
| | | 下3 | 削除 | 明朝体と教科書体の漢字字形 | |
| | | 下8 | 修正 | 基準としよう→基準としている | |
| | 65 | 下 | 修正 | 「海の中の声」「クジラたちの音の世界」という→「海の中の声」「クジラたちの音の世界」のように、「声」「音」という | |

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 |
|----|-------------|-----------------|----------|--|-------------|
| 1年 | 71 | | 修正 | 漢字に親しもう（資料6） | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 74 | 上 10～ 14～ | 修正 削除 | ハナ（植物□□顔にある）□□カガク（理科の「科」□ □変化の「化」□□シリツ（「シ」は私と市） 「私立」「市立」 | 点字の特性を考慮して。 |
| | 76 | | 修正 | 漢字の学習2 1～3の漢字は点線文字で表す。 4は点字表記の問題に修正する。（資料7） | |
| | 109 | | 修正 | それぞれ枠を付け，108ページの上8行目の後に挿入。 | |
| | 112 | 上9～ | 修正 | 漢字に親しもう（資料8） | |
| | 120 | 9 | 補足 | 大形魚→大形魚（大きな形の魚） | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 126 | 下図 | 修正 | 点図で書き表す。 | |
| | 129 | | 修正 | 写真のキャプション「1日分の・・・になる」を下の注 に追加。 | |
| | 136 | 上図 | 修正 | 「日本十進分類法」はぶら下がり枠をつけて，1段落の後 に入れる。 | 点字の特性を考慮して。 |
| | 141 | | 修正 | 漢字に親しもう（資料9） | |
| | 150 | 挿絵 | 削除 | 挿絵は削除。 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 151 | 上6～ | 修正 | 資料10 | |
| | 152 | 上5～ | 修正 | 耳で聞いただけでは，「起工式」か「寄港式」かはわから ない。→耳で聞いただけでは「工事を始める式」か「港 に帰ったときの式」か「港に立ち寄ったときの式」かは わからない。 | 点字の特性を考慮して。 |
| | 171 | 挿絵 | 削除 | 4コマの絵は削除 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 172 | 上8～ | 修正 | 色紙や短冊に筆で→カードに その故事を四コマ漫画にして→その故事の由来をまとめ て | |
| | 173 | 上2～ | 修正 | 漢字に親しもう（資料11） | |
| | 174 | 枠内 | 補足 | 枠のタイトルを「野球の実況中継」とする。 | |
| | 175 | 上13 | 削除 | 「裏」のように | |
| | 177 | | 修正 | ＋の記号→と | |
| | 178～ 179 | | 修正 | 漢字の学習4（資料12） | |
| | 219 | | 修正 | 図は表形式で表した。（資料13） | |
| | 220 | 14～ 14 | 修正 補足 | ①～③→課題1.～課題3. 辞典・事典→辞典（言葉を説明した書物）・事典（ことが らを説明した書物） | 盲生徒の実態に即して。 |

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 |
|-------------|--------------------|------------------------|--|---|-------------|
| 1年 | 227 | 枠内 | 補足 | 枠の前に(「怒り」の程度による言葉のちがひ)という題を入れる。 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | | 欄外 | 修正 | 表を指示棒などで示しながら説明する。→資料を見てほしいときは、表の見てほしい箇所を具体的に示しながら説明する。 | |
| | 229 | | 修正 | 漢字に親しもう(資料14) | |
| | 232 | | 修正 | 手紙の形式(資料15) | 点字の特性を考慮して。 |
| | 233 | 上3～ | 修正 | 「横書きの場合は」、最初に日付・あて名→この場合は、最初にあて名・日付・差出人の氏名 | |
| | 234～ 235 | 上6～ | 補足 | 枠の前に(例文)と入れる。以下同様 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 238 238～ 239 | 上10 下1～ | 補足 修正 | 片仮名→片仮名・点字 例の漢字は点線文字で書き表す。読みは音と訓を併記する。(資料16) | |
| | 258 | 5 6 7 8 10 | 修正 | 白い部分を→左下の図を見てみよう。このように中の部分を | |
| | | | 修正 | 黒い部分は→周りの部分は | |
| | | | 修正 | 逆に黒い部分に→右下の図を見てみよう。周りの部分に | |
| | | | 修正 | 白い部分→中の部分 | |
| | 260 | 9 | 修正 | 白い部分 目から | |
| | 260 | 9 | 修正 | 左の図の場合はどうであろうか。ちょっとすまして図の奥の→ここに1枚の図がある。ちょっとすまして奥の方を | |
| | 262 | 1 | 修正 | 左の図を見てみよう。・・・絵が見えるであろう。→別の絵を見てみよう。・・・絵がある。 | |
| 265 | 下表 | 補足 | 表の後に注を入れ、上7行目後に挿入。 (注) 情態一心の有様。 | 点字の特性を考慮して。 | |
| 270～ 273 | 文図 | 修正 | 色分けの傍線は、右側の黄色の傍線のみ、「」で示す。 | | |
| 275 | 上11 ～ 下7 | 補足 | (外来語などのときは「-」), →(点字や外来語などのときは「-」), 拗音だけは→拗音だけは普通の文字では | | |
| 296 297 | 下 | 修正 修正 | 6は点字の書き方に合わせて書き改める。 推敲例は(初めに書いた文章), (推敲した文章)の順に二つの文章に分けて書き表す。 | | |
| 2年 | 12 | 8 | 修正 | 写真の中から→桜並木, 朝露, あんず畑, れんげ畑, 菜の花畑, つくしの写真の中から | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 32 | 上 | 修正 | (3)(4)の上は前に下は後に改める。 | 点字の特性を考慮して。 |

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 | |
|----|---------|------|------|---|-------------|-------------|
| 2年 | 32 | 下7～ | 修正 | 次の語には漢字の説明を補足する。 こうしゃ（「コー」ハ□オリル。□□「シャ」ハ□□クルマ。） してき（「シ」ワ□ワタクシ。） いせい（「イ」ワ□コトナル。） こうぼう（「コー」ワ□オコル。□□「ボー」ワ□ホロビル。） | 点字の特性を考慮して。 | |
| | 33 | 下図 | 修正 | 書くことの学習1の図は表形式で、いつ、どこで、どんなことがの順に昼休み、休み時間、下校時、日曜日の内容を示す。 | 盲生徒の実態に即して。 | |
| | 36～38 | | 修正 | 漢字の学習1の1と2は点線文字を用いて組み替えた。3～5は言葉の意味を調べる問題に組み替えた。（資料17） | | |
| | 65 | 上図 | 削除 | 図は削除 | | |
| | 68 | 上4 | 修正 | この写真の→単元二の扉絵の | | |
| | 69 | 地図 | 修正 | 「かたつむり」の呼び方の分布図は言葉による説明に差し替えた。（資料18） | | |
| | 72～73 | | 修正 | 漢字の学習2は、漢字の意味に注目した意味の学習に組み替えた。（資料19） | | |
| | 147 | 上7～9 | 修正 | 漢字に親しもう （ ）の中のどちらかの・・・→「 」で示した四字熟語の意味を調べてみよう。 | | |
| | 148 | 上14～ | 修正 | 「ない」「ます」「とき」「ば」などの・・・話し合ってみよう。→「ない」「ます」「。（句点）」「とき」「ば」。（命令で言い切る）」「う（よー）」などの言葉に続くとき、どのように形を変えるだろう。次の動詞について確かめ、気づいたことを話し合ってみよう。 | | 点字の特性を考慮して。 |
| | 149 | 表 | 修正 | 表の語句を148ページの上段末に挿入。 □□遊ぶ□□読む□□話す□□過ぎる□□生きる□□降りる□□変える□□受ける□□述べる | | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 150～151 | 下13～ | 修正 | 四つの語を活用させて、次の表を完成させよう。→四つの語を次の語（または記号）に続けて活用させよう。・・・ □□□□未然形□□う（ー） □□□□連用形□□た、ない、なる □□□□終止形□□。 □□□□連体形□□とき、ので □□□□仮定形□□ば □□□□命令形（活用はない） | | 点字の特性を考慮して。 |
| | 152 | 5 | 修正 | 「危い」と書くと、→「キ」に「イ」と送り仮名を付けると、以下送り仮名は第2つなぎ符に続けて示す。 | | |

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 |
|-----|-------------|-----------|---------------------------|---|--|
| 2年 | 162～ | | 修正 | ルビは、句で区切って原文のすぐ後に（ ）で囲んで入れる。 | 点字の特性を考慮して。 |
| | | | 170 | 脚注 | 修正 欄外注 山ぎは→山ぎは（が）一空の、山に接するように見える辺り（が）。 紫→紫だちたる一紫があった。この場合の「紫」は、今の紫よりやや赤みをおびた紫色で、「古代紫」と呼ばれる。 山の端→山の端（に）一空の、空に接する部分（に）。 「山ぎは」に対する語。 |
| | 176～ 180 | 漢詩 | 修正 | 漢文の点字表記を参考に添える。 | |
| | 179 | 3 5 | 削除 修正 | 「然」は「燃」と同じ。 燃＝赤→燃える（赤） | |
| | 182 | 下7 | 修正 | 色紙→カード | |
| | 183 | 下7と 10 | 修正 | 漢文の点字表記で書き表す。 | |
| | 184 | | 修正 | 漢字に親しもう（資料20） | |
| | 187 | 上11 | 補足 | 「一所 懸命」→「一所（ひとつの場所） 懸命」 | 点字の特性を考慮して。 |
| | 188～ 189 | 上6 | 補足 | 「早く」→「はや__く（ソー）」 | |
| | | 上7 | 補足 | 「速く」→「はや__く（ソク）」以下同様。 | |
| | | 下1 | 補足 | 「寄港」「帰港」→キコウ（「キ」は寄る）「キコウ（「き」は帰る）」 | |
| | | 下4～ 5 | 修正 | 行頭の寄と帰は削除。「寄（寄__る）」「帰（帰__る）」 | |
| | | 下6～ | 修正 | 1～2は漢字の意味を加える。（資料21） | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 202 | 挿絵 | 削除 | 挿絵と吹き出しは削除。 | |
| | 207 | | 修正 | 話題例は時計回りに書き表す。 | |
| | 225 | 上1～ 下1 | 補足 | 「人」「者」「手」「家」「士」などの→「ジン」（ひと）「シャ」（もの）「シュ」（て）「カ」（いえ）「シ」（資格を持った人） 署・局・所・堂→署（役所）・局・所（ところ）・堂 | 点字の特性を考慮して。 |
| | 235～ 236 | | 修正 | 漢字の学習5の3～5は意味を調べる問題に修正する。（資料22） | 盲生徒の実態に即して。 |
| 250 | 2 4 | 補足 | 「憂き世」→「憂き世（憂うつな世）」 | 点字の特性を考慮して。 | |
| | | 補足 | 「憂き」→憂うつ「憂き」「浮き」→浮き雲の「浮き」 | | |
| 254 | 13 15 | 削除 | ここに羽子板絵を示そう。→羽子板絵を示そう。 | 盲生徒の実態に即して。 | |
| | | 修正 | こういう作品→羽子板絵 | | |

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 | |
|----|-------------|----------|---|---|-------------|-------------|
| 2年 | 255 | 8 12 | 修正 | 上に掲げるのは引き札というものだ。→また、引き札というものがある。 きの図は→「江戸出店之図」は | 盲生徒の実態に即して。 | |
| | 257 | 5 | 補足 | 「諸色戯場春昇初」→「諸色戯場春昇初」（歌川国周） | | |
| | 264 | 下1 | 修正 | 例は文節の区切りと、自立語と付属語の区別との2行で示す。 | | |
| | 276～ 285 | | 修正 | 漢字の使い方に慣れよう 「ここには、漢字の知識を豊富にするための問題や点字表記に習熟するための問題を集めてある。適宜取り組んでみよう。」（資料23） | | |
| 3年 | 12 | 9 | 修正 | あとにある二つの→あとにある例や二つの | | |
| | 13 | | 修正 | イラストを文章化する。 （例） 日本語の多様さーぼく□□わたし□□わし□□（英語ではI） 片仮名の使われ方ースプリングセール□□この味〈サイコー〉 比喩の不思議ー黄色い声□□のどから手が出る | | |
| | 19 | 下図 | 修正 | グラフを表にして書き表す。 | | |
| | 21 | 脚注 | 修正 | 「ドラマ」「バイク」では、・部が→「ドラマ」「バイク」では、「ド」「バ」が | | |
| | 23 | | 修正 | [報告書の構成例]は、ページ末に入れる。 | | |
| | 24 | | 修正 | 「学習の窓」は、25ページ末に入れる。 | | |
| | 27 | 下表 | 修正 | 表は2行目の後に入れる。 | | |
| | 29 | 上7～ | 修正 | 漢字に親しもう（資料24） | | |
| | 34～36 | | 修正 | 漢字の学習1（資料25） | | |
| | 40～47 | | 修正 | 各歌の（注）をそれぞれの歌の後に入れる。 | | |
| | 60～63 | | 削除 | 漢文は書き下し文のみにし、訓読文をすべて削除。 | | |
| | 69 | 上6 下1 | 修正 補足 | 漢字を入れて→漢字1字に相当する語を入れて 高尚→高尚（「コウ」「ショウ」は共に「高い」の意味） | | 点字の特性を考慮して。 |
| | 71 | 下6 | 修正 | 「お（御）～になる」→「お…になる□□ご…になる」 | | |
| | 72 | 上2 | 修正 | （〇〇は）、もうお帰りにになりました。 「お帰りになり」は、省略された主語（〇〇は）に対する敬意 | | |
| 72 | 下1 下11 | 修正 修正 | 「御（お）…する」→「ご…する□□お…する」 「お（御）…する」→「お…する□□ご…する」 「お（御）…申し上げる」→「お…申し上げる□□ご…申し上げる」 | | | |

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 |
|---------|---------|------|--------------------------|---|-------------|
| 3年 | 73 | 上1～ | 修正 | □□□□高橋さんが、ご自身のお書きになった本をくださいました。関心のある方にお貸しします。 □□動作主「高橋さん」への敬意（尊敬語）□—□ご自身□□お書きになった□□ください □□（貸す）動作の受け手「関心のある方」への敬意（謙譲語）□—□お貸しし □□話の聞き手への敬意（丁寧語）□—□まし□□ます | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 74～75 | | 修正 | 漢字の学習2 音は「 」で、訓は（ ）で示す。（資料26） | 点字の特性を考慮して。 |
| | 76 | 下1 | 修正 | 「動」→「どう（うご_く）」 | |
| | 78 | 下1～2 | 補足 | 「運動場に」→「運動場に」の「に」 「運動場で」→「運動場で」の「で」 | |
| | 79 | 下7～ | | 「わたしのところ」の→「わたしのところ」の「ところ」の | |
| | 126 | 2～3 | 修正 | 「顔マーク」は単元の扉絵に入れ、本文の説明の後に「単元の扉絵参照」とする。 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 132 | 下絵 | 削除 | 図削除。 | |
| | 133 | | | 表の内容をぶら下がり枠で囲み、補足修正。（資料27） | |
| | 137 | 上 | 修正 | 学習の窓は、136ページの2行目の後に挿入。 | |
| | 139 | 上7～ | 修正 | 漢字に親しもう（資料28） | |
| | 140 | 下3 | 削除 | 次の絵を表現した二つの文→次の二つの文 | |
| | 141 | 上8～9 | 修正 | (1) 「猫が」（主語）追いかけている（述部）。 (2) 「ねずみが」（主語）追いかけている（述部）。 | 点字の特性を考慮して。 |
| | | 下13 | 削除 | 次ページの絵を見て考えよう。 | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 144～147 | | 修正 | 漢字の学習3（資料29） | |
| | 155 | 脚注 | 削除 | チャーの脚注（ ）部分 | |
| | 156 | 8 | 修正 | （閨土）→（「うるう」と「ど」） | |
| | 175 | 2 | 修正 | ○○○○→○○□○○ ○は伏せ字。 | 点字の特性を考慮して。 |
| | 193 | 上8 | 修正 | (1) 胃 駅 禅→胃（内蔵の一つ） 駅（ステーション） 禅（「座禅」の「禅」） | |
| | 196～197 | | 修正 | 漢字の学習4（資料30） | 盲生徒の実態に即して。 |
| | 210 | 下表 | 修正 | 表の数字は数符揃えて書き表す。 | 点字の特性を考慮して。 |
| 218 | 上11 | 修正 | 下の絵を見て→次の会話文で | 盲生徒の実態に即して。 | |
| 218～221 | 下絵 | 修正 | 挿絵を削除し、吹き出しに「 」を付けて書き表す。 | | |

| 学年 | ページ | 行 | 修正事項 | 修正内容 | 備考 | |
|-----|-------------|--------------------------|-----------------------------------|--|-------------|-------------|
| 3年 | 223 224 | 下10 上13 | 削除 | () 部分は削除。 | 盲生徒の実態に即して。 | |
| | 223～ 226 | 下15 ～11 上16 ～下1 | 修正 削除 | 漢字は削除し、漢字に続く() 部分を書き表す。 また、常用漢字表中の国字7字は、どんな読み方をもっているだろうか。 | | |
| | 224～ 226 | 上2 ～ | 修正 | 漢字の学習5 (資料31) | | |
| | 230 | 1, 9 | 削除 | 大学ノートの大きさを、イラストを添えて | | |
| | 231 | 5～6 | 修正 | 文字の大きさ・形→レイアウト イラストや写真→写真など | | |
| | 257 | 下6～ | 修正 | ねずみが猫に追いかけられたらしい ねずみが猫に追いかけられたらろう | | |
| | 260 | 上1～ 6 | 修正 | 知らない人に「ボールを取る」ように頼む場合、利益を受ける人は「話し手」である。この場合、「ボールを取っていただけませんか。」と表現する。また、来客に「お茶を飲む」ように勧める場合、利益を受ける人は「聞き手」である。この場合、「お茶を召し上がってください。」 | | |
| | | 下6～ 8 | | 次の文の上のような→次の文のような わたしがいたす。→(訂正) わたしがいたします。 わたしが明日参る。→(訂正) わたしが明日参ります。 | | |
| | 262 | 上8～ | 修正 | ① 母が(主語・動作主) □弟を(修飾語・受け手) □しかる。 ② 弟が(主語・受け手) □母に(修飾語・動作主) □しかられる。 | | 点字の特性を考慮して。 |
| | | 下14 | 補足 | (7)(8)の文でわかるように(4)(5)の受け身の | | |
| | 266～ 275 | | 修正 | 漢字の使い方に慣れよう (資料32) | 盲生徒の実態に即して。 | |
| | 293 | | 修正 | 常用漢字表 付表 (資料33) | | |
| 304 | 下5 | 修正 | 下段は、二年で学習した内容。→その後に二年で学習した内容を示した。 | | | |

3 参考資料

資料1 「点字の書き方」

書き方の形式

1 作文一般

題は、1行目に書く。全文が10数ページにわたるような作品の場合には、題を2行目に書いても差し支えない。題の書き出しは、普通は7マス目であるが、題の長さによって、短かければ9マス目、長ければ5マス目から書くようにする。なお、2行にわたる場合には、題の頭をそろえるか、2行目を2マス下げて表す。

名前は、題を書いた次の行に書く。名前の後は行末まで2マスくらいあくようにする。

本文は、名前を書いた次の行から書き始める。長い作品の場合には、名前の後1行あけて本文を書いてもよい。文章の書き出しや段落の変わり目では行替えし、3マス目から書く。

本文の1行を書き進み、行末から次の行に移って1マス目から書き続けることを行移しという。行移しをして書き続ける場合、行末にゆとりがあっても、一続きに書くべき語句がその行に入りきれないときには、次の行に移して書く。そうしないと、「盲学校を卒業した。」という文が、「もう 学校を卒業した。」のように意味が変わってしまうことにもなりかねない。ただし、本来一続きに書くべき助詞や、助動詞のうち、「ようだ」、伝聞の「そうだ」、「ごとし」、「らしい」、「みたい」、「です」、「だ」などが行末に書ききれない場合には、次の行に移して書いても差し支えない。また、行を移すときに、行末にマスあけをするゆとりがなくなった場合でも、行移しをすることによって1マスあけか2マスあけの役割を果たすので、次の行の行頭でマスあけをしてはならない。

なお、当然のことながら、行移しに当たっては、特に次の事柄に注意する必要がある。

(1) 2行にまたがって書いてはならないもの

ア 数符に続けて一続きに書くべき数字(万、億、兆などの位を仮名で書く場合には、その後で行移しをして差し支えない。)

イ 外字符に続けて一続きに書くアルファベット

ウ 濁音や拗音のように2マスで構成されている文字

エ ふたえカギ、指示符類などのように2マス以上で構成されている符号類

(2) 行頭に書いてはならないもの

ア 句点、疑問符、感嘆符、読点、中点など

イ 囲み符号(カギ類、指示符類、カッコ類、点訳者挿入符、段落挿入符、外国語引用符、発音記号符)の閉じ符号

ウ つなぎ符、波線、小見出し符、詩行符類など

これらの符号が、もし行末に書ききれないときには、その符号の接続する前の語句と共に次の行に移して書く。

(3) 行末に書いてはならないもの

ア 数符、外字符などの前置記号

イ 囲み符号(カギ類、指示符類、カッコ類、点訳者挿入符、段落挿入符、外国語引用符、発音記号符)の開き記号

これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、次の行に移して書く。

ページは、点字用紙の表の右上に奇数ページだけを書く。

(短歌の例)

リョーカン□□
□□カスミタツ□ナガキ□ハルヒニ□コドモラト□テマリ□
ツキツツ□コノ□ヒ□クラシツ

キタハラ□ハクシュー□□
□□イシガケニ□コドモ□7ニン□コシカケテ
□□□□フグヲ□ツリオリ□ユーヤケ□コヤケ

イシカワ□タクボク□□
□□カニカクニ□シブタミムラハ□コヒシカリ
□□オモヒデノ□ヤマ
□□オモヒデノ□カハ

(俳句の例)

ヤマグチ□セイシ□□
□□サジ□ナメテ□ワラベ□タノシモ□ナツゴホリ

タカハマ□キョシ□□
□□□□ハクボタン□イフト□イヘドモ□コー□ホノカ

3 脚本

人物名を3マス目から書き、その後ろに小見出し符類を付けたら、人物名の後ろを2マスあけて台詞を書く。台詞が2行以上にわたるときは、次の行は行頭から書く。台詞に第1カギをつける必要はない。また、人物名を行頭から書き、次の行からは3マス目から書く方法もある。人物名は、繰り返して何回も現れるので頭文字などによる略記法を用いるのが便利である。

情景の説明は、第1段落挿入符で囲んで書き表し、ト書きは、第1カッコで囲んで書き表す。

(例)

□□□□□リヤオー□モノガタリ
□□□□ダイ1マク□□リヤオーノ□キューデン
□□

| | | | |
|---|---|---|---|
| ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|

アイズノ□ラッパガ□スイソー□サレル。□□リヤオーヲ□セントーニ
3ニンノ□ムスメ

| | | | |
|---|---|---|---|
| ゴ | ナ | リ | ル |
|---|---|---|---|

、□リーガン、□コーディーリア

| | | | |
|---|---|---|---|
| ク | ケ | コ | ク |
|---|---|---|---|

、□ソノタ、
ジューシン□ケントヲ□ハジメ□オオゼイノ□カシंगा□トージョー□スル。□

| | | | |
|---|---|---|---|
| ク | ケ | コ | ク |
|---|---|---|---|

□□リヤオー

| | | | |
|---|---|---|---|
| ク | ケ | コ | ク |
|---|---|---|---|

□□ミナノ□モノモ□シッテ□イル□トオリ、□フランスオート
バーガンディコーガ□コーディーリアヲ□ヨメニ□ホシイト□イッテ、□キテ
オラレル。□□ソノ□ゴヘンジヲ□スル□マエニ、□コンゴ□ダレガ□ワシニ
モットモ□コーヨーヲ□ツクシテ□クレルカ□ハナシテ□モラオー。□□ココロガケノ
ヨイ□モノニワ□ソノ□ブンニ□オージテ□リョーチヲ□サズケタイ。
□□ゴナリル

| | | | |
|---|---|---|---|
| ク | ケ | コ | ク |
|---|---|---|---|

□□ワタシワ□コトバデワ□イエナイホド□オトーサマノ□コトラ
オモッテ□イマス。
□□コーディーリア

| | | | |
|---|---|---|---|
| ク | ケ | コ | ク |
|---|---|---|---|

□

| | | | |
|---|---|---|---|
| ド | ク | ハ | ク |
|---|---|---|---|

□□ワタシワ□ナント□イオー。

ココロカラ□オツカイシタイノダケド。

□□リヤ□□□チズヲ□サシナガラ□□ヨク□イッタ。□□オマエニワ、□コノ
キョーカイセンノ□ナカノ□リョーチヲ□ヤロー。□□サア□リーガン、□オマエワ
ドーダ。

□□リーガン□□オヤニ□コーコー□スルノワ□コノ□タノシミ、□ソノ□タノシミ
イガイノ□モノワ□ミナ□ワタシノ□テキデ□ゴザイマス。

□□コーディ□□□ドクハク□□コンドワ□ワタシノ□バンドワ。□□ワタシノ□
キモチワ□コトバデワ□イエナイ。□□ソーダ、□ワタシワ□ダマッテ□イヨー。□□
(イカ□リヤク)

4 手紙

点字の手紙は、あて名や日付、及び差出人名などを最初に書くのが一般的である。この場合、まず1行目に相手の名前を書く。3マス目か5マス目あたりから書き始める。日付は、普通次の行に書く。相手の名前より2マスまたは4マス下げて書くのがよい。自分の名前は3行目に書くのが普通であるが、日付と同じ行に書いても差し支えない。名前の後は、行末まで2マスくらいあくようにする。

また、一般の手紙のように、あて名、日付、差出人名を手紙の最後に書くこともある。その場合には、日付、差出人名、あて名というように書く順序が変わることに注意する。

内容の書き方は自由であるが、前文（時候の挨拶、相手の安否を尋ねるなど）、本文、末文（終わりの挨拶など）と分けられる場合には、それぞれ行を改めるべきである。

なお、手紙を折って封筒に入れる場合は、封筒の大きさに合わせて、..を1行入れると点を傷めずに折ることができる。たとえば、32マスの点字器では、点字用紙の裏面の4・9・14行目に入れて四つ折りにするか、5・12行目に入れて三つ折りにするとよい。

また点字の郵便物は、切手をはらずに、その位置に「盲人用」と書き、右肩1/3を開封にする。

(例1)

サトー□タロー□サマ
□□□□□2002ネン□4ガツ□15ニチ

スズキ□ジロー□□

(例2)

サトー□タロー□サマ□□□□□□□□□□スズキ□ジロー

(例3)

サトー□タロー□サマ

□□□□□□□□□□□□□□スズキ□ジロー□□

(例4)

・・・デワ□ゴケンコーヲ□オイノリ□イタシマス。

□□□□2002ネン□4ガツ□15ニチ

スズキ□ジロー□□

5 日記類

個人的な日記には、一定の形式はない。個人の好みに応じてどのように書いてもよいものである。しかし、普通は最初に日付、曜日、天候などを書く。

日付については、次のような略記法を用いることもできる。例えば、2002年4月15日を、

□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□

□□□□□□□□

のように略記する方法もある。また、年数は、各月の1日だけに記入するとか、1月1日だけにするとかの工夫はあってよいことである。

日付に続く曜日、天候なども、それぞれ2マスずつあけて書くべきものであるが、

□□□□□□□□□□モク□カイセイ□ムフー□アタタカシ

のように1マスあけて書き続けても差し支えない。

また、行末の扱いにしても、一般には行末が何マスあいていても、次の一続きの語句が書けない場合は行移しをするが、個人的な日記では、語句の切れ目などで行移しをすることも許されることである。

学級日誌などの公的な日誌類は、記入する項目が予め決められていることが多い。そうした場合には、項目ごとに行を改め、項目の後は2マスあけるか、小見出し符を用いるとよい。また、毎日同じ項目を繰り返して書かずに、項目を記号や番号に置き換えるなどの工夫はあってもよいことである。なお、毎日交代で書くような場合には、その都度ページを改めたり、裏は使用せず点字用紙を改めたりすることも多い。

いずれにしても、継続して書く日記類の場合には、レターファイルとかルーズリーフとかでその都度整理しておくことが大切である。

6 ノート類

ノートは教科や書くべき内容の違いによって、とり方も異なるものである。それだけに、書き方もそれぞれに工夫して、後で見やすい形式でとっておく必要がある。

一般に、ノート類は大項目、中項目、小項目とに分けて箇条書にすることが多い。この場合、項目の大きさを区別するために、項目に数字をつけて大小の序列を表すことが多い。普通には、大きい項目から順に、

何も符号をつけない数字 1

ピリオドをつけた数字 1.

第1カッコをつけた数字 (1)

第1カッコとピリオドをつけた数字 (1.)

のように用いる(数字の代わりに50音やアルファベットなどを用いる場合も、これにならう)。数字に符号をつけない場合は、数字の後を2マスあけて項目や見出しを書く。数字に符号をつける場合は、1マスあけてもよい。

書き出しの位置は、最も大きな項目を9マスあたりから書き始め、項目が小さくなるごとに2マスずつ前を出して書くのが普通であるが、ノート類では、逆に最も大きな項目を1マス目から書き、項目が小さくなるごとに2マスずつ下げて書く方法をとってもよい。いずれの場合でも、同じ大きさの項目は数字等につける符号を合わせるとともに、書き出しの位置も同じマス目にそろえることが大切である。

ノートの書き方としては、そのほか、カッコ類、矢印、棒線、点線、波線類などの符号や、数に関する略記法を活用して見やすいノートを工夫すべきである。また、各ページの最後の行をあけておいて、そのページに書かれている内容を簡単に記しておく、後でノートを利用する際に便利である。

なお、ノート類は常に分類し、整理して、ファイルなどにとじ込んでおくように心がけることが特に大切である。

7 答案

点字では、多くの場合、試験問題と答案用紙が別になっている。したがって、答案を書くに当たっては、次のようなことに注意しなければならない。

ア 答案に書く番号や記号は、問題文の番号や記号と同じものを用いる。問題文に「問1」と書いてあれば、答案にも「問1」と書いて、その答えを書く。問題文の番号に句点がついていれば、答案の番号にも句点をつけて、第1カッコが付いていれば、同じように書く。番号と解答との間は、2マスあける。

イ 問題はどこから解いてもよいのであるが、前後を動かして解答する場合には、それが何番のどの問の答えであるかが分かるように、番号をはっきりと書いて解答する。

ウ 答えは1問ごとに行替えをして書く。

エ 記号で答えるような場合には、特に書き間違えないように注意する。もし、書き間違いをした場合には、その部分をメの字にしてしまうか、改行して訂正と書いた上で、改めて答えを書く。

オ 答案を見直して、答えを書きかえる場合には、訂正と書いた後に、問題番号から改めて答えを書く。

8 目次

目次は、見出しの項目が少ない場合でも、1ページを使用する。

目次は、1行目の中程に目次と書き、次の1行をあけて見出し語を書く。見出し語は、1行に1項目ずつ、行をつめて書くが、2行以上にまたがるときは、見出し語の行頭から2マス下げ、さらに行末がページを表す数字の位置にかからないように書く。項目に序列がある場合は、その序列にしたがって、例えば、5マス目、3マス目及び1マス目から書き始めるといのように、書き始めの位置で違いを表す。

ページ数は、普通行末に記し、項目とページ数との間は、点線で埋める。この際に用いられるのは、②の点や⑥の点であるが、点線の前後は、それぞれ1マスずつあける。

9 略記法

ノート類や試験問題などには、しばしば略記法が用いられる。

ア ページ・行の略記

pとℓを用いて、ページと行を示す。その際に、行を下から数えた方が早い場合には、下という言葉を行の数字の前に入れて示す。

p 3□ℓ5 (3ページ5行目)

p 4□シタ□ℓ2 (4ページ下から2行目)

イ 下がり数字を用いる略記

□□□□□ (2と5分の3)

□□□ (4ページ8行目)

□□□□ (11月3日)

ウ ②⑤の点を間に挟む略記

□□□□□□ (10時40分)

エ ③⑥の点を間に挟む略記

□□□□□□□□ (3丁目1番7号)

オ マスあけを省略してつめて書く略記

□□□□□□□□□□□□ (電話番号)

資料2 (1年 P.10)

□□□□この教科書で学習するみなさんへ

□□□□学習のしかたを知ろう

□□「話す・聞く活動」□□「書く活動」□—□どちらも、どんな話題でどんな活動をするかを、題名と副題で示している。活動を通して、言葉の力を高めよう。

□□「読む活動」□—□前にあるリード文で目的をつかみ、学習課題に取り組もう。

□□「学習の窓」□—□学習の中で身につけたい力を示している。ほかの学習の場でも活用しよう。

□□「本の世界を広げよう」□—□読書生活を豊かに。

□□「好きな作品を選び、自ら取り組もう」□—□学習の成果を生かして、自ら学習しよう。

□□「書くことの学習」□—□書く手だてを研究し、練習によって身につけよう。

□□□□言葉の力を身につけよう

□□「文法」□□「言葉の学習」□□「漢字の学習」□—□文や語句、文字などについて、練習したり必要な知識を整理したりしよう。なお、漢字の音は第1カギ、訓は第1カッコで囲んで示し、送り仮名は、第2つなぎ符の後に示した。また、漢字の意味は第2カッコで示した。

□□「新出漢字」□—□欄外と教材末に示している。音訓を覚えよう。

□□「新出音訓」□—□小学校学習漢字の音訓で、中学校で初めて学習するもの。確実に覚えよう。

□□「注意する語句」□—□本文の各偶数ページの欄外に示している。意味を調べ、使い方に慣れよう。

□□□□学習の中で活用しよう

□□「1年の文法のまとめ」□□「言葉を考える」□□ (付録) □「点字の書き方の形式」□□「アンケートを作成する」□□「文章を推敲する」□□「学習に役立てよう」□—□必要なときに、いつでも活用しよう。

□□□□原典ページを利用しよう

□□原典ページは、□□□□で囲んでページ行左側に示してある。

資料3 (1年 P.39)

□□□□ (ノート例)

□□□□□ 2. 友達の感想 (4 / 20スピーチの会から)

□□□□ (発言者) 高松 ◀

□□□□ 要点

□□ (1) 「ともかく、麻子はうれしかったのだ。」に感動。

□□ (2) 4人の友達が財布さがしを手伝ってくれた。

□□ (3) 困ったときこそ力になってくれる。

□□□□ メモ

□□ (1) の「感動した」には同感。

□□ (2) のような経験はわたしにもある。

□□□□ 大切だと思うこと

□□ ゆっくり話してくれたので聞きやすい。メモをあまりみない。=説得力がある。まねしたい。

...

(注1) □□ 「2. 友達の感想」のように小見出しをつける。

(注2) □□ 後から補足を加える場合は、何の補足であるかはっきり分かるように書く。

資料4 (1年 P.42下)

□□□□□ うちの犬

□□□□ 体長は60cm。

□□ しっぽは短く、立っている。

□□ 毛の色は茶色。

□□ 耳は立っている。

□□ 目は大きくて、くりくりしている。

□□□□ 名前はリュウ。

□□□□ 甘えん坊で、だれとでも遊びたがる。

□□ 母におこられると、すぐわたしの後ろに隠れる。

□□□□ 生まれて1年。

□□ 兄弟は5匹。

□□□□ 好きな食べ物は肉類。

□□ 散歩も好き。

□□□□ 庭に、よく穴を掘る。

資料5 漢字の学習1 (1年 P.46~47)

漢字の組み立て 漢字例

タイ (カラダ) □□ジュウ (ス__ム)
 ケツ (ムス__ブ) □□ヘン (ア__ム)
 ボウ (フセ__グ) □□リク
 ベツ (ワカ__レル) □□リ (キ__ク)
 チョウ (イタダ__ク) □□ガン (カオ)
 グン□□ト (ミヤコ)
 シツ (ムロ) □□キヤク・カク
 ビョー (ナエ) □□ (シバ)
 シ (ココロザシ) □□ヒ (カナ__シイ)
 ショウ (テ__ラス) □□ネツ (アツ__イ)
 テン (ミセ) □□コ (ク)
 ビョウ (ヤ__ム) □□ツウ (イタ__イ)
 エン (ノ__バス) □□ケン (タ__テル)
 ツウ (トオ__ル) □□キン (チカ__イ)
 コン (コマ__ル) □□エン (ソノ)
 カン (アイダ) □□カイ (ヒラ__ク)

(1年 P.47上)

イ(ニハツ)□—□タイ (カラダ) □□サク (ツク__ル) □□キュウ (ヤス__ム) □□ソウ
 八(ヒヤク)□—□コン (イマ) □□カイ (ア__ウ) □□ヨ (アマ__ル) □□レイ
 人(ヒト)□—□ニン (ヒト)

(1年 P.47下)

次の(1)~(3)の漢字群は、それぞれ同じ部首に属するものである。それぞれの意味を漢和辞典などを使って調べてみよう。

- (1) 「みず・さんずい」 □—□ヒョウ (コオリ) □□セン (イズミ) □□キュウ (モト__メル)
□□チ (イケ) □□ハ (ナミ) □□ホウ (アワ)
- (2) 「こころ・りっしんべん」 □—□ヒツ (カナラ__ズ) □□オウ□□シ (ココロザシ) □□カイ
(ココロヨ__イ) □□カイ (ク__イル) □□キョウ (ウヤウヤ__ノイ)
- (3) 「ころも」 □—□サイ (サバ__ク□タ__ツ) □□ソウ (ヨソオ__ウ) □□ホ (オギナ__ウ)
□□リ (ウラ)

資料6 漢字に親しもう (1年 P.71)

ワードプロセッサ (ワープロ) で「カイホウ」と入力して、漢字変換を行うと、次のような4種類の語が候補として示された。

□□カイホウ (開け放す□□自由にする□□会の活動を報告する文書□□病気や傷がよくなる)

このように、同じ音で意味の異なる語を、同音異義語という。

1 次の「 」の語は、() の中のどちらを使うだろう。

- (1) 合唱の「シキ」をする。(演奏などをリードする□□集団で事を行うときの意気込み)
- (2) 物語を「ゲキカ」する。(はげしくなる□□劇にする)
- (3) 「コウシ」を区別する。(おおやけとわたくし□□権力などを実際に使う)
- (4) 机に向かう「シセイ」。(からだの構え□□地方自治体としての市の政治)

(5) 災害「タイサク」本部。(規模の大きな作品□□状況に応じて採る手段)

2 次の同音異義語を使って、それぞれ短文を作ろう。

(例)

ジコ (自分□□思いがけずに起こった悪い出来事)

「ジコ」新記録を樹立する。

規則を守って「ジコ」を防ぐ。

(1) コウシュウ (社会一般の人々□□学問などを研究し練習する)

(2) セイカ (なしえたよい結果□□神に捧げる神聖な火)

(3) コウゾク (天皇の一族□□後から続く)

(4) イジョウ (通常とは違っている□□それより多い)

(5) カインソウ (建物の階の上下の重なり□□建造物などの装いを改める)

(6) シショウ (死ぬことと負傷すること□□さしつかえ)

(7) カクチョウ (詩や歌の品格と調子□□広がって大きくなる)

資料7 漢字の学習2 (1年 P.76)

1 例のように、二つの漢字を組み合わせて、一つの漢字ができるものがある。次の(1)~(4)の漢字の組み合わせを調べ確かめてみよう。(字形は点線文字)

(例) 口 鳥 → 鳴
コウ(クチ) チョウ(トリ) メイ(ケ__ク)

(1) 不 口 → 否
フ コウ(クチ) ヒ(ケ)

(2) 言 方 → 訪
ゲン(イ__ウ) ホウ(カタ) ホウ(オズ__ル)

(3) 天 虫 → 蚕
テン(アメ) チュウ(ムシ) サン(カイロ)

(4) 亡 心 → 忙
ボウ(ナ__イ) シン(ココロ) ボウ(イカ__シ)

2 次の各組について、同じ漢字(または、漢字の部分)を探してみよう。

(1) 窓 忠 憲
ドウ「ソウ」 「チュウ」ジツ 「ケン」ボウ

(2) 砂 磁 確
「サ」バ 「ジ」シャク 「カク」シン

(3) 複 腹 復
「フク」スウ マン「ブク」 オウ「フク」

(4) 視 覧 観
「シ」リョク テン「レン」 「カン」サツ

3 例にならって(1)~(6)の漢字に共通してつけられている「へん、つくり、かんむり、かまえ、たれ」を見つけて、名前を調べてみよう。

(例) 種 移 秋 秒
シュ(タネ) イ(ウツ__ル) シュウ(アキ) ビョウ

答え 禾 (ノギヘン)

- (1) 源 洗 測 泳 → 答え
 ゲン(ミナト) セン(アラウ) ソク(ハカル) エイ(オヨグ)
- (2) 供 仁 値 体 → 答え
 キョウ(ソノエル) ジン(ニ) チ(ネ) タイ(カラダ)
- (3) 順 頂 額 頭 → 答え
 ジュン チョウ(イダク) ガク(ヒタイ) トウ(アタマ)
- (4) 宝 宇 容 客 → 答え
 ホウ(カラ) リ ヲウ キヤク・カク
- (5) 閑 間 閑 聞 → 答え
 カン(アイダ) ベイ(トシル) ブン(キク)
- (6) 序 庁 府 庫 → 答え
 ジョウ チョウ フ コ

4 次の各文の点字表記の誤りを見つけよう。

- (1) 我先に□ハシリ□ダス。
- (2) 机を□ナラベテマナブ。
- (3) 機械を□ソウサシテ□穴を□掘る。
- (4) 絹糸を□ツカッテヌウ。
- (5) 母が□口紅を□ツケテイル。
- (6) カタミチジョウシャケンヲ□買う。
- (7) 思わず□ホーヲ□ソメル。
- (8) ふとんを□ウラガエシテホス。
- (9) 応援団が□シアイヲ□モリ□アゲル。

資料8 漢字に親しもう (1年 P.112)

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。()内の意味で使われているのはどちらだろう。文を作って考えよう。

- (1) 「こ」きゅう□□れん「こ」□□ (よぶ)
- (2) おん「りつ」□□ほう「りつ」□□ (りずむ)
- (3) しょ「かん」□□「かん」たん□□ (てがみ)
- (4) すん「こく」□□しん「こく」□□ (とき)
- (5) 「じゅう」らい□□「じゅう」じゅん□□ (したがう)

2 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。最初にあげた熟語の「 」で示した漢字に近い意味で使われているのは、後の中のどちらだろう。

- (1) 「しょ」めい(「しょ」は、しる__す) —ぶ「しょ」□□じ「しょ」
- (2) 「ばん」ねん—「ばん」せい□□さく「ばん」
- (3) 「そう」ぞう(「そう」はつく__る) —「そう」りつ□□「そう」しょう
- (4) 「りん」じょう—「りん」じゅう□□「りん」かい

3 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。熟語の意味を調べよう。

- (1) ひ「かく」□□えん「かく」
- (2) ず「つう」□□「つう」せつ
- (3) しゅ「のう」□□だい「のう」

- (4) びょう「しん」□□「しん」ろ
- (5) てっ「きん」□□「きん」こつ
- (6) めい「ろう」□□「ろう」どく
- (7) 「ちゅう」こく□□「ちゅう」せい
- (8) 「しょう」らい□□めい「しょう」

資料9 漢字に親しもう (1年 P.141)

1 後の語群から接頭語を選ぼう。

- (1) 経済
- (2) 党派
- (3) 作用
- (4) 優先 (他より先であること)
- (5) 至急 (極めて急ぐこと)
- (6) 検討 (調べたずねること)

語群

□□ふ□□だい (おお__きい) □□む (な__い) □□み (いま__だ) □□さい (もっと__も) □□はん (そむ__く)

2 次の□□の中に、後の語群から接尾語を選び、文を完成させよう。

- (1) 問題を単純□□して考える。
- (2) 危機□□な状態をむかえる。
- (3) 可能□□を信じて努力する。
- (4) 郵便□□が配達される。

語群

□□ぶつ□□か□□せい□□てき

3 次の「 」の中から、接頭語や接尾語を抜き出そう。

- (1) 「ようじき」の思い出を大切にす。
- (2) 会場が「だいこんらん」におちいる。
- (3) あの人は著名な「たんけんか」だ。
- (4) その問題は「みしより」のままだ。
- (5) 「さいばんしよ」を見学する。
- (6) 飛行機が「きゅうこうか」する。

資料10 漢字の学習3

(1年 P.151 8行目～)

次の漢字には、多くの読み方がある。音・訓ともに次に示す以外に、どんな読み方があり、どんな語として使われるか、漢和辞典などで調べてみよう。

□□ジョウ (ア__ガル) □□カ (シタ) □□ガイ (ソト) □□クウ (ソラ) □□コウ (イ__ク) □□ジ (オサ__メル) □□ダイ (カ__ワル) □□ツウ (トオ__ル) □□テイ (サダ__メル) □□ホ (アル__ク) □□ヘイ (タイ__ラ) □□メイ (アカ__ルイ)

次の各組の「 」をつけた語は、どのような音読みをするかによって、表す意味が異なる。それぞれの音のとき、どんな意味になるだろうか。

(1)

「10分」後、玄関前に集合する。

危険は「じゅうぶん」覚悟している。

(2)

床の間などの「ぞうさく」に凝った部屋。

そんな願いなら、かなえるのは「ぞうさ」もない。

(3)

「1行」目を書き出す。

首相「いっこう」は和やかに会談した。

「セイブツ」「なまもの」のように、音読みにするか訓読みにするかで、別の意味になる語がある。それぞれの語の意味を考えよう。

ダイジ — オオゴト

シキシ — イロガミ

ショニチ — ハツヒ

フウシャ — カザグルマ

カンキ — サムケ

タイカ — オオヤ

サイモク — ホソメ

(1年 P.152 上12行目～)

次の「 」をつけた語は、後の()内のどちらを使うか。また、もう一方の語はどういう使い方をするのだろうか。

(1) 失敗も度重なると、「シンコク」にならざるをえない。(申しのべる□□重大なこと)

(2) 肝心の問題は、「イゼン」として未解決だ。(それより前□□もとのまま)

(3) 監督は、守備陣にA選手「ホウイ」網を命じた。(方角□□包み囲む)

資料11 漢字に親しもう (1年 P.173)

(上3～6行目)

日常使われる漢字には、音読みと訓読みのあるものが多い。次の「 」で示した漢字は、同じ漢字である。読み方のちがいを確かめよう。

「音」と「訓」

ヤ「チョウ」□□「トリ」ノ□ス

「ユ」エンチ□□ミス「アツ」ビ

「ヒョー」ザン□□ガ「ゴオ」

(下2～3行目)

1. 改善 (あらた__める□□よ__い)

2. 牛乳 (うし□□ちち)

3. 困難 (こま__る□□むずか__しい)

4. 激動 (はげ__しい□□うご__く)

5. 築城 (きず__く□□しろ)

6. 短縮 (みじか__い□□ちぢ__む。)

(下9～13行目)

1. 音しかないもの

- 「宅」(じゅう「たく」□「たく」ち) □□「処」(「しょ」り□「しょ」ぶん)
「冊」(「さつ」し□「さつ」すう) □□「肺」(「はい」かつりょう) □□
「班」(「はん」ちょう□「はん」いん) □□「詞」(か「し」□めい「し」) □□
「論」(ぎ「ろん」□「ろん」り) □□「盟」(どう「めい」□か「めい」) □□
「翌」(「よく」ちょう□「よく」ねん) □□「棒」(「ぼう」グラフ)

2. 訓しかないもの

- 「株」(きり「かぶ」□□「かぶ」しき) □□「届」く(荷物が「届」__く)

資料12 漢字の学習4 (1年 P.178～179)

1 例にならって、各組の漢字のしりとりをしよう。また、それぞれの熟語の意味を調べてみよう。

(例) 学校→校歌→歌手→手足→足音

- (1) 役割→割合→合同→同盟→盟約
(2) 性質→質疑→疑問→問題→題名
(3) 源泉→泉水→水分→分担→担任

2 次の各組の「 」で示した部分は、すべて同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 運「賃」□□「賃」金□□船「賃」□□家「賃」
(2) 混「乱」□□「乱」用□□「乱」雑□□散「乱」
(3) 星「座」(「セイ」は星) □□「座」談□□「座」席□□正「座」(「セイ」は正す)
(4) 「吸」収□□「収」容□□「収」集□□「収」入
(5) 解「除」□□「除」去□□「除」草□□「除」外
(6) 「郷」土□□「郷」里□□帰「郷」□□故「郷」

3 各組の三字の熟語の「 」で示した部分は、同じ漢字である。それぞれの語の意味を調べてみよう。

- (1) 注「射」器□□放「射」線
(2) 演「奏」家□□合「奏」曲
(3) 格「納」庫□□未「納」入

4 漢字四字からなる熟語もある。語の意味を考えよう。

- (1) 宇宙開発
(2) 巻末付録
(3) 穀倉地帯
(4) 皇后陛下
(5) 四捨五入
(6) 針葉樹林
(7) 蒸気機関
(8) 宣伝効果
(9) 秘密兵器
(10) 火気厳禁
(11) 展示会場
(12) 欲求不満

5 例にならって、(1)~(3)の熟語の二つの字に、共通する漢字の部分を探してみよう。

(例) けしき

草花 → せい

(1) ショクリン (2) テッコウ (3) カイヨウ

植林 鉄鋼 海洋

6 次の熟語の「 」で示した漢字を使って、他の熟語を作ってみよう。

□□コウ「ホ」 □□「シュウ」 ショク□□「ケイ」 トウ (順序だったつながり) □□
ザツ「シ」 □□サ「トウ」 □□「フン」 キ (フルイタツ) □□ハイ「ユウ」 □□
「ソン」 ボウ□□カイ「ダン」 (上り下りする段) □□ソン「ケイ」 (敬う) □□
「ハイ」 シャク (借りるの謙譲語) □□「カン」 ゴ□□「ゴ」 ホウ (まちがった知らせ)
ソウ「ジュク」 □□「セン」 モン□□「スイ」 シン (おし進める)

資料13 (1年 P.219)

□□□□□□「雪やこんこ、あられやこんこ」から

□□□□□□慣用句・ことわざ

□□「耳を傾ける」「昔とったきねづか」のような言葉を集める。

□□□□□□擬声語・擬態語

□□1. 雨が降る様子、歩く様子など。

□□2. 「さらさら」と「ざらざら」のような違い。

□□□□□□方言

□□各地の方言の違い。自分たちの地域の方言。

□□□□□□自然を表す言葉

□□雪の様子を表す言葉、雨や雲の様子を表す言葉には、どんなものがあるか。

□□□□□□和語・漢語・外来語

□□「宿屋・旅館・ホテル」のような言葉を集めて、感じの違いを考える。

□□□□□□日本語の特色

□□外国人にとって、日本語のどんなところが難しいか。

□□□□□□生活の中の言葉から

□□□□□□感情を表す言葉

□□「うれしさ」などを表す表現を集める。

□□□□□□流行語

□□流行語は、どうやって生まれるのか。

□□□□□□慣用句・ことわざ

□□「耳を傾ける」「昔とったきねづか」のような言葉を集める。

□□□□□□話し言葉

□□文末の上げ下げによって、どんな違いが生まれるか。

□□□□□□広告の言葉

□□どんな言葉が人を引きつけるか。

□□□□□□学習したことの中から

□□□□□□和語・漢語・外来語

□□「宿屋・旅館・ホテル」のような言葉を集めて、感じの違いを考える。

□□□□文字

□□漢字と平仮名、片仮名の印象の違い。

□□□□比喻

□□文学作品の中のおもしろい比喻。

□□□□名句・名言

資料14 漢字に親しもう (1年 P.229)

漢字には、形がよく似ている漢字と、組み立ての上で共通する部分をもつ漢字がある。

| | |
|-------|------------|
| 未 | 末 |
| 「ミ」ライ | 「マツ」(スエ) |
| 識 | 織 |
| チ「シキ」 | 「シキ」(オ__ル) |

形に気をつけて、次の漢字をくらべてみよう。

1 次の「 」に入る漢字をあとの点線文字の中から選ぼう。

1. 朝から「フク」痛がする。

| | |
|---------|-----------|
| 復 | 腹 |
| 「フク」シュウ | 「フク (はら)」 |

2. 「コン」難を乗り越える。

| | |
|--------------|--------|
| 困 | 因 |
| 「コン (コマ__る)」 | ゲン「イン」 |

3. 満潮と「カン」潮。

| | |
|-------------|-------|
| 干 | 午 |
| 「カン (ホ__す)」 | 「ゴ」ゼン |

4. 火山の噴火で「ハイ」がふる。

| | |
|-----------|------|
| 炭 | 灰 |
| 「タン (すみ)」 | 「ハイ」 |

5. 未来は「ワカ」者がつくる。

| | |
|--------------------|---------------|
| 苦 | 若 |
| 「ク (くる__しい□にが__い)」 | 「ジャク (ワカ__い)」 |

2 次の各組の「 」をつけたa～cの漢字は、形がよく似ているものや、共通する部分をもつものである。それぞれの漢字の意味と熟語を参考にして、例のように短文をつくってみよう。

(例) a 「シン」(ふかい) — 「シン」カイ 深海にもぐる。

b 「タン」(さぐる) — 「タン」ケン 探検隊が出発する。

(1) a 「ヒ」(比べ合わせる) — 「ヒ」レイ

b 「ヒ」(くらべて、よい悪いを決める) — 「ヒ」ハン

(2) a 「延」(ひきのばす) — 「エン」キ

b 「誕」(生まれる) — 「タン」ジョウ

(3) a 「巻」(まく) — 「まき」じゃく

b 「券」(チケット) — ジョウシャ「ケン」

(4) a 「宇」(大きなやねの下) — 「ウ」チュウ

- b 「宗」(おおもと) — 「シュウ」キョウ
- (5) a 「枚」(一つ一つ数える) — 「マイ」スウ
- b 「牧」(まきば) — 「ボク」ジョウ
- (6) a 「城」(範囲) — チ「イキ」
- b 「城」(しろ) — 「ジョウ」カマチ
- (7) a 「貸」(かす) — 「か_し」かり
- b 「賃」(報酬としてのお金) — 「チン」ギン
- (8) a 「権」(他人を支配することのできる力) — 「ケン」リョク
- b 「観」(みる) — 「カン」サツ
- (9) a 「諸」(たくさんの) — 「ショ」コク
- b 「署」(やくしょ) — ケイサツ「ショ」
- c 「著」(書物にかきあらわす) — 「チョ」シャ
- (10) a 「幕」(おおうもの) — カイ「マク」
- b 「暮」(日の沈む時刻) — ユウ「グ_レ」
- c 「墓」(はか) — 「ぼ」ち

資料15 手紙の形式 (1年 P.232)

手紙の書式

- (1) あて名・日付・差出人の氏名 — あて名の敬称は、一般に「様」を用いるが、「先生」などを用いる場合もある。相手が個人でない場合は、「御中」と書く。
- (2) 前文 — 時候のあいさつをしたり、相手の安否を尋ねたりする。「拝啓」と書いてから、書き始めることもある。
- (3) 主文(本文) — 手紙の趣旨と用件を書く。用件が正しく伝わるよう、整理して書くことが大切である。
- (4) 末文 — 終わりのあいさつを書く。「拝啓」で始めたら、結びは「敬具」を用いるのが普通である。

(例)

もりもと□とみこ□せんせい

□□□□□□□□3がつ□とおか

なかむら□しんいち□□

.....(1)

□□拝啓

□□梅の花が満開です。(省略)

.....(2)

□□このたび山北小学校6年2組の卒業生で、同窓会を開きたいと考えています。ぜひとも森本先生にご出席いただきたいので、春休みのご予定を教えてください。(省略)

.....(3)

□□ご返事をお待ちしております。お体を大切に。

敬具.....(4)

資料16 漢字の学習5

(1年 P.238 下1行目)

漢字の主な成り立ちには、次の四種がある。

(1) 象形 — 物の形を象った略図からできたもの。

(例) 日 山 川
ニチ(ヒ) サン(ヤマ) セン(カ)
木 鳥 桑 など。
キ(モク) チョウ(トリ) ヲウ(ク)

(2) 指事 — 絵では示しにくい事項を、抽象的な記号やその組み合わせの約束によって表したもの。

(例) 一 二 上
イチ(ヒト) ニ(フタ) ジョウ(ウエ)
下 本 末 など。
カ(シタ) ホン(モト) マツ(スエ)

(3) 会意 — 二つ以上の字を組み合わせて、新しい意味を示したもの。

(例) キ(モク) と □キ(モク) □—□リン(ハヤシ)
コウ(クチ) と □チョウ(トリ) □—□メイ(ナク)

(4) 形声 — 二字を組み合わせて、一方は音、他方は意味を表したもの。

(例) カ(カワ) □□セン(アラウ) □□ヨウ((大きな海の意味)) など。

これらの漢字は、左の「さんずい」が「水」という意味を表し、右の「か」「せん」「よう」が音を表している。

ただし、中には「さんずい」に「セイ」(アオ)と書く、「セイ」(キョ__イ)のように音を表す部分「セイ」が、同時に「澄みきっている」という意味を表すものがあり、会意形声と呼ばれる。

(1年 P.239 下7行目)

次の熟語の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれどのような意味で使われているか、調べよう。

訪「問」 □□「問」題

愛「情」 □□国際「情」勢

顧「客」 □□「客」観

整「理」 整頓 □□「理」解

資料17 漢字の学習1

(2年 P.36 下2行目～)

「堤防」の「ボウ」、「脂肪分」の「ボウ」、「紡績」の「ボウ」は、音を表す部分も、「ボウ」という音も共通している。形声や会意形声の漢字は、音を表す部分が共通していれば、形も音も似ているものが多い。

これらの漢字は使い方を誤りやすいが、意味を表す部分に着目すると、正しい使い方が分かる。例えば「堤防」の「ボウ」に付いている「こざとへん」は「積み上げた土」に、「脂肪分」の「ボウ」に付いている「にくづき」は「体」に、「紡績」の「ボウ」に付いている「いとへん」は「衣類」に関係する。このことを知っていれば、「いとへん」の付いた「ボウ」を、海岸や川岸に土を盛って造られる「堤防」という言葉に用いることはないだろう。

1 次の(1)~(5)は、それぞれ二つの漢字をいくつかの部分に分け、同じ大きさにして並べ換えてある。例にならって、それらを後の漢字の中から探してみよう。

(例) 日 言 正
月 → 証 明、
 シヨウメイ

(1) 反 木 失
金 → 鉄 板
 テツパン

(2) 土 口 寸
十 → 古 寺
 フルデラ

(3) 言 立 里
舌 → 童 話
 ドウリ

(4) 口 方 言
門 → 訪 問
 ホウモン

(5) 女 立 子 日
心 → 好 意
 コウイ

2 次のそれぞれの漢字は、一部分を取り換えて別の漢字を作ったものである。例にならって、取り換えた部分を探してみよう。

(例) 副 祝 消
→ 福 削 況

(1) 揚 仏 坂
→ 払 仮 場

(2) 境 他 鉢
→ 地 体 鏡

(3) 咲 間 勉
→ 加 関 晩

3 次の各組の「 」をつけた箇所は、共通する部分と音とがある漢字である。それぞれの漢字の意味を漢和辞典などを用いて調べよう。

(1)

父は材木を商う会社を「経」営している。

直「径」二メートルの円。

「軽」快なステップを踏む。

(2)

この古「墳」は聞きしにまさる大きさだ。

「噴」水がたくさんある公園。

彼の言葉に皆は「憤」慨した。

(3)

品質「検」査に多くの時間が費やされる。

お小遣いを「儉」約する。

危「険」の有無を確認すべきだ。

周到な準備をして実「験」を行った。

(4)

許可を得るには「申」請書が要る。

初老の「紳」士に出会った。

「神」経を研ぎ澄ます。

(5)

湾内に美しい船が停「泊」している。

サーカスの離れ業に「拍」手が鳴りやまない。

「迫」真の演技に圧倒される。

船「舶」の操縦免許を取得する。

4 次に示す各組の熟語について、「」で示した漢字に注意してそれぞれ意味を調べよう。

(1) 「努」力□□激「怒」

(2) 原「因」□□「困」難

(3) 「枝」葉□□「技」術

(4) 争「奪」□□「奮」闘

(5) 分「析」□□右「折」

(6) 「隆」起□□「降」下(「コウ」は降りる。□□「カ」はした。)

(7) 匹「敵」□□「適」切

(8) 便「宜」□□「宣」誓

(9) 均「衡」(「キン」は□ならしたいらにする。□□「コウ」は□つりあい。) □□「衝」撃

(10) 山「頂」□□「項」目

5 組み立ての上で共通する部分を持つ漢字でも、同じ音で読むとは限らない。次の各組の「」で示した漢字の音に注意して、意味を調べてみよう。

(1)

「えき」ちょう□□かい「しゃく」□□こー「たく」□□ほん「やく」

(2)

さ「ばく」□□「も」ほー□□ねん「まく」

(3)

せい「かく」□□しょう「りゃく」□□どう「ろ」

(4)

おう「えん」□□「かん」わ□□おん「だん」

(5)

「ばい」りつ□□ぜん「ぶ」□□かい「ぼー」

資料18 (2年 P.69)

「かたつむり」の呼び方の分布

デンデナムシ — 近畿地方や瀬戸内地方、愛知、三重に多い。北海道、東北の太平洋側、関東の一部、九州北部などにもみられる。

デーロ、ダイロなど — 新潟、福島、栃木、群馬、長野、埼玉の秩父地方などに多い。
 マイマイなど — 関東から東海にかけての太平洋側、中国地方、九州北部などに多い。
 カタツムリ、カサツブリなど — 北海道、秋田、山形、関東南部と中部地方、四国の太平洋側、中国地方、大分、宮崎に多い。
 …ツムリ、…ツブリなど — 岐阜、福井、京都、奈良、大分などでみられる。
 ツブラメ、ツ(ン)グラメなど — 宮崎、鹿児島に多く、熊本、大分にもみられる。
 ツンナメ、ツダミなど — 南西諸島および薩南諸島にみられる。
 タマクラ、ヘビタマクリなど — 岩手および宮城にみられる。
 ナメクジなど — 函館周辺、青森、岩手、福島、伊豆諸島、熊本に多く、茨城や栃木、岐阜、長野、高知、山口、佐賀、長崎などにもみられる。
 ミナなど — 熊本および宮古島でみられる。
 ツノダセなど — 青森、岩手および秋田の北部、群馬、埼玉北部に多い。

資料19 漢字の学習2 (2年 P.72~73)

1 次の「 」で示した部分は、同じ漢字の二つの音である。それぞれの熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 「音」楽会□□福「音」
- (2) 「仮」眠をとる。□□「仮」病を使う。
- (3) 初「夏」の候。□□「夏」至が近づく。
- (4) 「外」科医□□欄「外」に記す。
- (5) 旅「客」機□□乗「客」
- (6) 故「郷」に帰る。□□近「郷」
- (7) 「強」弱□□「強」情
- (8) 「児」童書□□小「児」科にかかる。
- (9) 「修」飾語□□武者「修」行
- (10) 「宗」匠□□「宗」教
- (11) 鎮「静」剤□□「静」脈
- (12) 「発」起人□□「発」祥の地。
- (13) 違「反」□□「反」物を運ぶ。

2 次の「 」で示した部分は、同じ漢字の二つの訓である。送り仮名に気を付け、言葉の意味を調べておこう。

- (1) 鏡に顔を「映__す」。□□遠く of 山々が夕日に「映__え」て美しい。
- (2) 会社同士で契約を「結__ぶ」。□□日本髪を「結__い」上げた美しい人形。
- (3) 「傷」は完全に治癒した。□□梅雨どきは食べ物「傷__み」やすい。
- (4) 水筒の水を飲み「干__し」た。□□朝食に魚の「干」物を食べた。
- (5) 華麗で「厳__かな」雰囲気 of 式だった。□□頑固でしつけに「厳__しい」父親だ。
- (6) 「幸__い」、通りかかった人に助けられた。□□海 of 「幸」が豊富な日本海。
- (7) 「強__い」意志で睡魔に勝つ。□□無理を「強__い」ないで自主性に任せる。
- (8) やぎ of 「乳」搾りを初めて体験した。□□妹はまだ「乳」飲み子だ。
- (9) 偉人 of 生涯を「著__し」た本。□□彼の跳躍力は「著__しく」伸びた。
- (10) 感激を「新__た」にする。□□「新」妻と共に迎える初めての正月。

2字以上の漢字が結びついて特別な読み方をするものがある。このようなものを熟字訓という。次

に「 」で示した熟字訓にはどのような漢字が使われているか調べてみよう。

以下傍線部は「 」でくくって示す。

資料20 漢字に親しもう (2年 P.184)

週刊誌の「カン」は一週間ごとに出る雑誌だから一週間の「カン」と書きたくなる。しかし、一週間ごとに発刊される雑誌だから発刊の「カン」と書くのが正しい。専門家の「モン」は学問と結びつけて学問の「モン」と書きたくなるが、ある部門を専ら扱う人だから部門の「モン」が正しい。

漢字の意味、熟語の意味をよく知り、正しく書くようにしたい。

次のそれぞれの文で「 」で示した部分は、()の中のどちらの漢字を使うのが正しいか。漢字の意味を参考にして調べてみよう。

- (1) 人工衛星「セイ」の軌道を修正する。□□ (ほし□□いきる)
- (2) 交渉が難「コウ」する。□□ (ふねがすすむこと□□いく)
- (3) 事故の「ゼン」後策を考え、収拾に努める。□□ (よい□□まえ)
- (4) 仮「ソウ」行列が、盛大に行われる。□□ (おもう□□よそおう)
- (5) 彼を委員長に「お__す」。□□ (力をいれて向こう側へ動かす□□推薦する)
- (6) 人に「おく__れ」をとるのは嫌だ。□□ (予定の時刻より遅くなる□□先を越す)
- (7) 勝ち戦のはずが、大差で「やぶ__れた」。□□ (裂けたり穴があいたりする□□まける)

次の熟語について、それぞれ短文を作ろう。

「受賞」(賞を受ける) □□ 「授」賞 (賞を渡す)

「操」業 (機械などを動かして仕事をする) □□ 「創」業 (事業を新しくはじめる)

保「障」(危険がないように責任を持って守る) □□ 保「証」(確かだと請合う)

資料21 漢字の学習 4 (2年 P.188~189)

1 次の(1)~(12)の「 」で示した部分は、()の中のどの漢字を使うのが正しいか。

- (1) 火事に「そな」えて浴槽に水を入れる。(予め用意して待つ□□神や仏の前に、物を調べて差し上げる)
- (2) 白菜を一株「つ」ける。(つけものにする□□表面にぴたりと触れてはなれない)
- (3) 審議会に「はか」る。(相談する□□深さや面積や長さなどをはかる□□物の数を数える)
- (4) 平均寿命が「の」びる。(長くなる□□時間が長びく)
- (5) 秩序立てて話すように「つと」める。(力を尽くす□□仕事につく□□役目をする)
- (6) 京浜地区に「す」む。(居所を定めてそこで生活する□□物事が終わる)
- (7) 両方の主張が伯仲して、議論は「へい」行線をたどる。(ならば□□たいら)
- (8) 「しょう」待されて豪華客船に乗る。(まねく□□よびよせる)
- (9) 「い」頼を快諾する。(きもの□□頼みにする)
- (10) 壇上に立つと、緊「ちょう」して足が震えた。(長い□□延べ広げる□□とばり)
- (11) 実践を例に「てき」切な助言をする。(まと□□ふさわしい)
- (12) 耳鼻科で「けん」査を受ける。(しらべる□□つつましい)

2 「コウテイ」「センセイ」「カイソウ」という読み方をする語にはどんなものがあるだろうか。調べてみよう。

資料22 漢字の学習5 (2年 P.235~236)

3 次の「 」で示した部分は、音が同じで形も似ている二つの漢字である。それぞれの熟語の意味を調べ、共通する漢字を指摘しよう。

- (1) 「がい」念□□感「がい」無量□□憤「がい」□□「がい」数
- (2) 「そ (はば_む)」害□□先「ぞ」□□「そ」止する□□「そ」国
- (3) 自由「さい」量□□決「さい」を仰ぐ□□満「さい」□□記「さい」する
- (4) 「とう」写版□□沸「とう」□□戸籍「とう」本□□物価「とう」貴
- (5) 「かん」暦□□帰「かん」する□□いっ「かん」として□□「かん」境保護

4 次の「 」で示した部分を漢字で書き表すには、()の中のどちらを用いるか。辞典で確認しよう。

- (1) 受け入れ「タイセイ」を整える。(姿勢□□物事に対する身構えや状態)
- (2) ホームスチールを「カンコウ」する。(あえて行う□□以前からの習わし)
- (3) それは「シュウチ」の事実だ。(広く知れ渡る□□多くの人の知恵)
- (4) 高原の「セイジョウ」な空気を吸う。(普通で変わったところがない□□清らかで汚れない)
- (5) 核兵器の「キョウイ」について語る。(脅かされる□□非常に驚くべき)
- (6) 童歌の一つを「アイショウ」する。(好きでいつも歌う□□親愛の気持ちを込めて呼ぶ特別の名前)
- (7) 「ツイトウ」コンサートが開かれた。(死者の生前をしのび、その死を悲しむ□□敵を追いかけて撃ち取る)
- (8) 景気が「ゼンシン」的に回復する。(前へ進む□□順を追って進む)
- (9) 寛大な処置が彼を「サイセイ」させた。(生き返る□□くずや製品を加工し別の製品にする)
- (10) 摩擦によって「イジョウ」な熱を生じる。(いつもと違った何か変わった状態□□普通ではない様子)

5 例にならって、「AB」の中に、同じ音で読む別の漢字を入れ、言葉をつくってみよう。分からないときは、辞典を引こう。

(例) 切手を「AB」する。□□答え 収集

→ヒント 「B」合の合図。

- (1) 「AB」車が走る。□□答え

→ヒント 「B」に思い立つ。

- (2) 石油を「AB」する。□□答え

→ヒント 仕事に「A」がでる。

- (3) 「AB」が迫る。□□答え

→ヒント 絶好の「B」会だ。

- (4) 「AB」を鍛えよう。□□答え

→ヒント 「B」長が伸びる。

資料23 漢字の使い方になれよう (2年 P.276~285)

1 次の「 」で示した部分の漢字を用いて、別の熟語を作ろう。

「 」で示した漢字は以下のとおり。

- (1) 「異」質
- (2) 「延」期

- (3) 「我」
- (4) 「絹」
- (5) 「磁」石
- (6) 「忠」実
- (7) 「穀」倉地帯
- (8) 「縮」尺
- (9) 「仁」術
- (10) 得「策」

2 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を考えよう。

- (1) 候「ほ」□□「ほ」強□□「ほ」助□□「ほ」給
- (2) 苦「なん」□□「なん」破□□「なん」解□□「なん」易
- (3) 階「だん」□□石「だん」□□「だん」落□□手「だん」
- (4) 干「ちよー」□□風「ちよー」、□□「ちよー」流□□満「ちよー」

3 枠の中から→(語群)の中からに修正。

4 次の「 」で示した漢字について調べてみよう。

- (1) 「集__まった」
- (2) 「暮__しはじめて」
- (3) 「行__った」
- (4) 「務__めて」
- (5) 「住__む」
- (6) 「胸」
- (7) 夏「休__み」
- (8) 「当__たる」
- (9) 探険「か」
- (10) 「夢」
- (11) 「城」下町
- (12) 「弱」点
- (13) 「出」産
- (14) 「中」腹
- (15) 「結」束
- (16) 「拡」大
- (17) 惑「星」
- (18) 「道」
- (19) 「激__しい」
- (20) 「創」立

5 次の熟語は同じへんを持つ漢字どうしでできている。へんの意味を確認し、熟語の意味を調べよう。

- (例) 満潮→さんずい
- (1) 肺臓→にくづき
 - (2) 源流→さんずい
 - (3) 議論→ごんべん

- (4) 俳優→にんべん
- (5) 植樹→きへん
- (6) 地域→つちへん

6 次の各組の□には、同じ漢字が入る。後の語群の中から漢字を選んでそれぞれの熟語を完成させよう。

- (1) しょ□ — □たん
- (2) □にく — みち□
- (3) □きゅう — てん□
- (4) ひ□ — □めい
- (5) えん□ — □じょう
- (6) □はく — くち□
- (7) □せつ — せ□
- (8) □ち — き□

語群

□□かく (かわ) □□かん ((てがる)) □□こつ (ほね□ぼね) □□こう (べに) □□こ (よ__ぶ)
 □□げき ((しばい)) □□きん (すじ) □□たく ((やしき))

7 次の「 」で示した語句の意味を調べてみよう。

- (1) 今年の売り上げがどのくらいになるかは「ヨソク」できるが、来年「イコウ」については分からない。
- (2) 祭りは、最終日に「サイコウチョウ」を迎えた。大勢の人々がかつぐおみこしは「アッカン」だった。
- (3) 「キョウリョク」なメンバーがそろい、この試合の勝利を「カクシン」した。

8 次の各文について、点字表記が誤っている箇所を抜き出して正しく書こう。

誤って表記する箇所は以下のとおり。

- (1) トウロンカイ
- (2) キザマレテイル
- (3) ワスレナイヨーニシタイ
- (4) センセーニ
- (5) オーサカジョーワ
- (6) フリダシソーニミエル
- (7) ケンポウノ
- (8) コーフン□ギミニ
- (9) タマゴトシテ
- (10) シュウキョウガ
- (11) ランボオニ
- (12) アルモノダ
- (13) ノビテイル
- (14) コーツーキソクラ
- (15) ヤク□シタ
- (16) アッケ□ナイ
- (17) ジューダンシタ

- (18) ユウメイナ
- (19) タレサガッテイル
- (20) ヒテイシテワ

9 次の各組の「 」で示した部分の漢字について、それぞれの意味の違いを調べよう。

- (1) 未「処」理□□消防「署」□□「諸」事情
- (2) 「将」来性□□「障」害物□□死「傷」者
- (3) 官「庁」街□□地図「帳」□□絶好「調」
- (4) 与野「党」□□黒砂「糖」□□「討」論会

10 次の四字の漢字でできた熟語の意味を調べよう。

- (1) 秘密厳守
- (2) 臨時休業
- (3) 就職活動
- (4) 皇后陛下
- (5) 聖人君子
- (6) 公私混同

11 次の文の「 」で示した部分は、()の中のどちらの漢字を使うのが正しいか。

- (1) 母のお「とも」をして病院に行く。(一緒に□□従う)
- (2) 目的地に着いたので、タクシーを「お__りる」。(高いところから低いところへと進む□□乗り物の中から外に出てくださる)
- (3) 税金を「おさ__める」のは、国民の義務だ。□□(学問などを身に付ける□□差し出す)
- (4) 真冬にしては、「あたた__かい」日だった。□□(気温があたたかい□□物の温度があたたかい)
- (5) 用事が「す__んだ」ので、遊びに出かける。□□(決まった場所で暮らす□□物事が完了する)
- (6) 池の水面に月が「うつ__る」。□□(なにかを光によって別の所に現す□□ある物の形や姿や光景を別の物にそっくり表す)

12 次の各文について、点字表記が誤っているところを抜き出して正しく書こう。

誤って表記する箇所は以下のとおり。

- (1) サンマイ
- (2) ソノケンニ
- (3) オイテアル
- (4) ケイビイントシテ
- (5) ヒトリツツ
- (6) シュツドースル
- (7) ソノ□ゴノ
- (8) ヨーグルトノ□ヨーナ
- (9) ニシヤマサンノ
- (10) オチコンデ□バカリ
- (11) アイスルコトラ
- (12) ケンリワナイ
- (13) ハナスコトガ
- (14) キリツタダシイ
- (15) シッテイル

- (16) ハッシャスンゼンノ
- (17) ホジョシテ
- (18) スナオニミトメル

13 次の言葉でそれぞれ短文を作ってみよう。

- (1) 暖__かい (だん)
- (2) 誤__る (ご)
- (3) 危__ない (き)
- (4) 疑__う (ぎ)
- (5) 従__う (じゅー)
- (6) 尊__い (そん)

14 次の「 」で示した各組の部分は、字形の似た漢字を用いる。「 」で示した部分に注意して、熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 「ちょー」点□□「よ」金
- (2) 操「じゅー」□□「じゅー」順
- (3) 思「こー」(「し」は思う) □□「こー」行(「こー」は父母を大切にすること)
- (4) 「こー」石(「こー」はあらがね) □□「こー」鉄(「こー」はたがね)
- (5) りょ「けん」□□「かん」頭(「かん」は書物の区分)
- (6) 運「ちん」□□「かし」家(「かし」は貸すこと□□「や」は家)

15 次の熟語の意味を調べてみよう。

- 絹織物□□遺失物□□郵便物□□映画化□□裁判所□□礼拝所□□専門家□□展覧会□□同窓会□□吸収力□□推進力□□指揮者□□演奏会□□負傷者

16 次の「 」で示した部分の漢字について、後に示した読み方をそれぞれ調べ、別の熟語を作ってみよう。

- (1) この図書館の「蔵」書は、約二十万冊だ。(訓読み)
- (2) 雪道に足を取られて動けなくなり、とても「困__った」。(音読み)
- (3) 幼いころ、友達といっしょに、海岸の「砂」で城を作って遊んだ。(音読み)
- (4) そのことは、会社の存「亡」にかかわる問題だ。(訓読み)
- (5) あ的那个人は、「裏」表のない正直な人だ。(音読み)
- (6) あなたにもらったアクセサリーは、「片」時も放さず身に付けている。(音読み)
- (7) せっかく豊かな才能を持っていても、それを磨かなければ、「宝」のもちぐされだ。(音読み)
- (8) こんなことになってしまって、「穴」があつたら入りたい気分だ。(音読み)
- (9) 「新__たに」株式会社を設立した。(音読み)
- (10) 今年の夏の水不足は深「刻」だ。(訓読み)
- (11) 新製品をテレビのコマーシャルで宣「伝」していた。(訓読み)
- (12) この海は、潮の「干」満の差が大きいことで知られている。(訓読み)
- (13) 郷里から、たくさんのみかんが「送__られて」きた。(音読み)
- (14) 今年は、今までになく大規模な学園「祭」になった。(訓読み)
- (15) 寝ている人が目を覚まさないように、そっとドアを「閉__めて」部屋を出た。(音読み)
- (16) アルコールは水に「比__べて」蒸発しやすい。(音読み)

17 次の熟語は、それぞれ四つの部分から成り立っている。形を調べてみよう。

(例)鉄棒 → 金 失 木 奉

- (1) 仮装
- (2) 頭脳
- (3) 針路

18 次の各組の熟語のしりとりから、それぞれの熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 看護→護衛→衛星→星座→座席→席順
- (2) 連盟→盟友→友情→情操→操作→作詞
- (3) 批評→評価→価値→値段→段階→階層
- (4) 負担→担保→保存→存在→在来→来訪

19 次の文章について、「」で示した部分は漢字を用いる箇所である。どんな漢字が使われているか考えてみよう。

「洋子」さんへ

「誕生日」おめでとう。

「二年生」になって、テニス「部」のキャプテンを「立派」に「務」めたり、ボランティア「活動」に「参加」したりと、いろいろなことに「意欲的」に「取」り「組」んでいるね。そんな「明朗快活」な「洋子」さんの「姿」は、とても「輝」いて「見」えます。これから「苦」しいことがあるかもしれないけど、お「互」いの「夢」を「捨」てずにがんばろう。「幼」なじみの「研」より

資料24 漢字に親しもう (3年 P.29)

次の八つの熟語は、それぞれ、音・訓のどのような組み合わせだろうか。

□□喪章 □□朱肉 (朱色の印肉) □□本棚 □□棧橋 □□切符 □□係員 □□縁側 □□貝殻

次の(1)~(8)の「」で示した熟語について、それぞれ、音・訓のどのような組み合わせかを考えよう。

- (1) 先輩の話はおもしろいが、「ホンスジ」から外れることがある。
- (2) 「テンマド」から蚊が入ってきてしまった。
- (3) 真珠や水晶をつかった装飾品は「ネダン」が高い。
- (4) 「アサバン」、楽譜を見て曲を覚える。
- (5) 百戦錬磨の「アイボウ」と決勝戦に臨む。
- (6) 客に「カミザ」を勧め、囲碁を始める。
- (7) 「マキジャク」を使って、道幅を測定する。
- (8) 「ウラモン」も人でいっぱいだ。

資料25 漢字の学習1 (3年 P.34~36)

1 次の各組の「」で示した部分は、形が似ている漢字である。それぞれの漢字の意味を調べてみよう。

(1)

前の話と今の話は「矛」盾している。

その店が商売敵になるのは「予」想できた。

(2)

「宣」伝のたびに売り上げが伸びた。

便「宜」を図ってくれたお礼をする。

(3)

「滅」菌処理をした道具を使う。

ダム貯水量が「減」少し、水不足が危ぶまれる。

(4)

先生の話には示「唆」されることが多い。

あの人の「俊」敏さを見習いたい。

(5)

異なった意見であろうと排「斥」しない。

食パンを一「斤」買う。

(6)

彼の「泰」然とした態度に安心を覚える。

「奉」仕活動で街道の清掃をする。

(7)

「墮」落した生活は送りたいくない。

航空機「墜」落のニュースが流れる。

2 次の各組の「 」で示した部分は、形が似ているうえに音も同じ漢字である。それぞれの漢字の意味を参考にして熟語の意味を調べよう。

(1) a. 「りよ」(おもいはかる) - えん「りよ」□□はい「りよ」

b. 「りよ」(とりこ) - ほ「りよ」□□「りよ」しゅう

(2) a. 「へい」(おかね) - し「へい」□□か「へい」

b. 「へい」(わるい) - 「へい」がい□□ご「へい」

(3) a. 「てつ」(とりはらう) - 「てつ」ぱい□□「てつ」しゅう

b. 「てつ」(つらぬきとおす) - 「てつ」てい□□いっ「てつ」

(4) a. 「ちく」(かい やしなう) - か「ちく」□□ぼく「ちく」

b. 「ちく」(たくわえる) - 「ちく」せき□□ちよ「ちく」

(5) a. 「かく」(りょうを して とらえる) - 「かく」とく□□ほ「かく」

b. 「かく」(かりいれる) - しゅう「かく」

(6) a. 「かつ」(どなる) - いっ「かつ」□□きょう「かつ」

b. 「かつ」(こげちゃ) - 「かつ」しょく

(7) a. 「こう」(ききめ) - 「こう」か□□ゆう「こう」

b. 「こう」(まちはずれ) - 「こう」がい□□きん「こう」

(8) a. 「ひ」(ひろげる) - 「ひ」ろう

b. 「ひ」(こうむる) - 「ひ」がい□□「ひ」ふく

(9) a. 「ふく」(ふたたび) - 「ふつ」きゅう□□かい「ふく」

b. 「ふく」(こみいる) - 「ふく」ざつ□□ちょう「ふく」

c. 「ふく」(はら) - 「ふく」しん□□くう「ふく」

(10) a. 「かん」(よろこぶ) - 「かん」げい□□「かん」き

b. 「かん」(みる) - 「かん」さつ□□しゅ「かん」

c. 「かん」(すすめる) - 「かん」こく□□「かん」ゆう

3 次の各組の漢字は、組み立てのうえで共通する部分があるが、すべて同じ音で読むとは限らない。それぞれの漢字を用いた熟語を挙げてみよう。

(1) 「どく(ひと__り)」□□「だ(へび)」□□ 「ばん」(らんぼう) □□「けい」(ほたる)

- (2) 「かく」(ちゅうしん) □□「がい」(あてはまる) □□「がい」(罪を調べる) □□「こく(きざむ)」
- (3) 「かん」(ふね) □□「かん」(かんがみる) □□「らん」(あふれる) □□「らん」(みる)
- (4) 「ぶ(あなどる)」 □□「かい(くいる)」 □□「かい(うみ)」 □□「まい」(そのたびごと)
- (5) 「しゃく(かりる)」 □□「せき(おしい)」 □□「さく」(まじる・あやまる) □□「そ」(そのままにしておく)
- (6) 「し(ささえる)」 □□「ぎ(わざ)」 □□「し」(てあし) □□「き」(わかれみち)
- (7) 「しゅく」(父母の年下のきょうだい) □□「じゃく(さびしい)」 □□「とく」(みはる) □□「しゅく」(しとやか)
- (8) 「せき」(船を数えることば) □□「こ(やとう)」 □□「い」(いとでつなぐ) □□「り」(はなれる)
- (9) 「しょう」(にている・にせる) □□「しょう(けす)」 □□「しょう」(火薬やガラスの原料) □□「さく(けずる)」
- (10) 「がい(そと)」 □□「ぼく」(かざりけがない) □□「ふ(おもむく)」

4 次の「」で示した部分は、画数が多く複雑な漢字である。「」で示した漢字の意味を調べてみよう。

- (1) 「逋」信博物館 □□「逋」減方式で返済する。
- (2) 「藩」主と家臣 □□幕「藩」体制の成立
- (3) 従来の方法を踏「襲」する。 □□敵の逆「襲」に備える。
- (4) 病気が治「癒」する。 □□財界との「癒」着
- (5) 美辞「麗」句 □□華「麗」な演技を見た。
- (6) もてる力を遺「憾」なく発揮する。
- (7) 「鬪」志を秘める。 □□孤軍奮「鬪」
- (8) 化「織」でできた服 □□「織」細な感覚
- (9) 「膨」張する予算 □□風船が「膨」らむ。
- (10) 「懸」案事項が残る。 □□「懸」命に走る。
- (11) 「覆」水盆に返らず。 □□大型タンカーが転「覆」する。
- (12) 生糸を蚕の「繭」から取る。

5 次の「」をつけた部分の漢字の意味を参考にして、それぞれの熟語の意味を調べてみよう。

- (1) 「いん」ぶん — 「いん」(ことばの ひびき)
- (2) 「さく」さん — 「さく(す)」
- (3) しゅ「とう」 — 「とう」(すいほうの できる びょうき)
- (4) 「きょ」ぜつ — 「きょ(こばむ)」
- (5) 「ふ」よう — 「ふ」(たすける)
- (6) 「ちゅう」さい — 「ちゅう(なか)」(ひとの なか)
- (7) 「てい」さつ — 「てい」(さぐりうかがう)
- (8) びょう「とう」 — 「とう」(たてもの)
- (9) うん「ばん」 — 「はん」(はこぶ)
- (10) 「ほ」そう — 「ほ」(しきならべる)
- (11) 「こう」けん — 「こう(みつぐ)」

(12) りよ「しゅう」 → 「しゅう(うれ__い・うれ__える)」

資料26 漢字の学習2 (3年 P.74~75)

1 「常用漢字表」には音・訓両方を示したもの、音だけを示したもの、訓だけを示したものがある。次に「 」(音を示す)と() (訓を示す)で示した漢字の意味を調べてみよう。

音・訓両方を示した漢字

- (1) はいすい「こう」を調べる。□□(みぞ)に はまる。
- (2) 車の「じ」こ。□□(ゆえ)なく罪に問われる。
- (3) 「し」めいを書く。□□(うじ)がみさまのお祭り。
- (4) りゅう「ぐう」じょう。□□「きゅう」でん。□□(みや)大工になる。
- (5) 銀貨を「ちゅう」ぞうする。□□(い)がたに はめる。
- (6) 「い」ろう会。□□友達を(なぐさ)める。

音だけを示した漢字

- (1) さん「きょう」の温泉。□□かい「きょう」を渡る。
- (2) 会社のどう「りょう」。□□かん「りょう」になる。
- (3) 主将をほ「さ」する。
- (4) めん「えき」りよくをつける。□□「えき」びょうにかかる。
- (5) じょう「ざい」を飲む。□□「じょう」まえを外す。

訓だけを示した漢字

- (1) ひ(がた)で潮干狩りをする。
- (2) 名古屋城のお(ほり)。□□つり(ぼり)に行く。
- (3) あみ(だな)。□□問題を(たな)あげする。
- (4) かい(づか)を見学する。□□1り(づか)。
- (5) (はだ)ざむい一日。□□しょくにん(はだ)の父。

2 次の各組の「 」で示した部分は、すべて同じ漢字である。それぞれのことばの意味を調べてみよう。

(1)

(ア)「き」ちょうひん□□(イ)「とうと」い命□□(ウ)命を「たつと」ぶ

(2)

(ア)「こう」さてん□□(イ)人がゆき「か」う

(3)

(ア)「しゅう」にん□□(イ)役に「つ」ける□□(ウ)帰途に「つ」く

(4)

(ア)ぼ「しゅう」□□(イ)よせ「あつ」め□□(ウ)若人の「つど」い

(5)

(ア)きゅう「じょ」□□(イ)「たす」けぶねを出す□□(ウ)「すけ」だち

(6)

(ア)「じょ」ゆう□□(イ)てん「によ」□□(ウ)「おんな」のこ□□(エ)「め」がみ

(7)

(ア)「しん」せい□□(イ)「じん」じゃ□□(ウ)「かみ」だのみ□□(エ)「かん」ぬし

(8)

(ア) じ「こ」しょうかい□□ (イ) こっ「き」しん□□ (ウ) 「おのれ」を知る

(9)

(ア) 「じょう」しょう□□ (イ) 「うわ」づみ□□ (ウ) 議題に「のぼ」せる

(10)

(ア) ほう「ぶん」タイプ□□ (イ) 「も」じ□□ (ウ) こい「ぶみ」

(11)

(ア) へい「わ」□□ (イ) 声を「やわ」らげる□□ (ウ) 心が「なご」む

(12)

(ア) 丘陵を「ある」く□□ (イ) 「ぶ」あい□□ (ウ) 一年の「あゆ」み

(13)

(ア) 「しゅう」とく□□ (イ) 金「じゅう」まんえん□□ (ウ) 落ち葉「ひろ」い

3 次の各文の□に、()内のどちらの語を入れると、正しい文になるだろうか。

(1) カメラは戦禍の様子を□写し出していた。(ちくいつ□□ちくいち)

(2) 法廷で騒ぐとは □道断だ。(ごんご□□げんご)

(3) □どおり、新人候補を擁立できた。(おもわく□□しわく)

(4) 勲章をもらい、□の思いがした。(まんかん□□ばんかん)

(5) 士気を□して全国制覇をねらう。(こぶ□□こまい)

資料27 (3年 P.133)

パーソナルコンピューター (パソコンについて) — 肯定の立場から
以下、次のように略す。「主張」は自分たちの主張、「反論」は予想される反論。

主張□□インターネットで検索すれば、居ながらにしてさまざまな情報が入手できる。

反論□□直接物事を確かめようとする姿勢がなくなる。

回答□□情報収集の一つの手段として、その長所を活用すればいい。

主張□□ただ情報を受け取るだけでなく、ホームページなどで自分の側からも情報を発信できる。

反論□□ホームページを作成できるほど使いこなせる人は少ない。

回答□□「できる」「できない」ではなく、「可能になった」こと自体がすばらしい。

主張□□インターネットで、同じ趣味をもつ新しい友達と会える。

反論□□自分の好きなことばかりに熱中し、世界が狭くなる。

回答□□むしろ趣味をきっかけに、人との交流の輪を広げられる。

主張□□電子メールでは、面と向かっては話せないことも伝えられる。

反論□□「面と向かって伝える」ことを避けてはいけない。

回答□□まず自分が伝えやすい方法から出発してもいいと思う。

資料28 漢字に親しもう (3年 P.139)

(上7行目～)

次の各文中の「 」で示した言葉について、辞典で意味を調べ、やさしい言葉に置き換えてみよう。

- (1) 従来の方針を「けんじする」。
- (2) 冒頭「ちんじゅつ」を行う。
- (3) 「ちゅうしんから」感謝する。
- (4) 同人誌を「しゅさい」する。
- (5) 試作品を無料で「はんぷ」する。
- (6) 情け「ようしゃ」ない。

(下6行目～)

(例) 協調する→歩調を合わせる。(「強める」意味の「強調」と紛らわしい。)

次の「 」で示した言葉は紛らわしい。言い換えたり説明したりしてみよう。

- (1) 創意工夫の「そうい」→(全員の考えの「総意」と紛らわしい。)
- (2) 「決済」(さいは「すませる」)→(権限者が決めるの「決裁」と紛らわしい。)
- (3) 「展開」(「展開」図)→(方向を変えるの「転回」と紛らわしい。)

資料29 漢字の学習3 (3年 P.144~147)

- 1 漢和辞典を引くと、一つの漢字に複数の意味が載っていることが多い。次の「 」で示す漢字について、それぞれの熟語では、後の()内のどの意味で使われているかを考えてみよう。
 - (1) 「ろ」こつ□□かん「ろ」(「かん」はあまい) □□よ「つゆ」□□と「ろ」－(むき出しになる□□つゆ)
 - (2) 「や」そう(「そう」は くさ) □□ぶん「や」□□し「や」□□「や」しゅ(「しゅ」はおもむき)－(自然のまま□□区分・範囲)
 - (3) 「は」かい□□どく「は」□□「は」れつ□□とう「は」(「とう」は ふむ)－(こわす・こわれる□□成し遂げる)
 - (4) こく「はく」□□「はく」じょう(「じょう」は ものの ようす) □□「はく」い□□「はく」せん－(色が白いこと□□述べる)
 - (5) せん「い」□□「い」じ(「じ」は もつ) □□「い」しん(「しん」は あたらしい)－(つなぎとめる□□いと□□次にくる言葉を強調)
- 2 「 」の中の熟語は似た意味を持つ。次の各文の□には、どの語が適切だろう。
 - (1) 「感情□□心情」

□的にならず論理的に話す。

彼の□は察するに余りある。
 - (2) 「失墜□□紛失□□喪失」

ミスの連発で自信を□した。

□した定期券が見つかった。

不正が発覚して、信用が□した。
 - (3) 「閑静□□静寂□□静粛」

□を破る大音響が鳴り響いた。

この辺りは□な住宅街だ。

講演が始まったら□にしなさい。
 - (4) 「絶大□□巨大□□甚大」

□な岩が見える。

台風による被害は□だ。

諸先輩から□な支援を賜った。

3 「 」をつけた部分は同じ漢字であるが、違う意味で使われている。それぞれの漢字の意味を調べよう。

- (1) ここは学びの「その」だ。□□こう「えん」。
- (2) 「こう」がむちな人□□「あつ」がみ。
- (3) 「じゃっ」かんめいの求人がある。□□「わか」ば。
- (4) 彼のどく「ぜつ」にはまいった。□□「した」を鳴らす。
- (5) 彼のもん「てい」になった。□□きょう「だい」。
- (6) ちょうのさなぎが「う」かする。□□1「わ」。
- (7) 「くら」やしきが美しい町並み□□しよ「ぞう」。
- (8) ち「まなこ」になって財布を捜す。□□「がん」りき。
- (9) 「あざ」の付く住所を調べる。□□かつ「じ」。
- (10) 危篤の「ほう」に急ぎ駆けつける。□□いんがおう「ほう」。

4 次の「 」で示した語の意味を調べよう。

- (1) 望みがかなって「御満悦」というところだ。
- (2) 芝居はいよいよ「佳境」に入った。
- (3) 見学者の中から「詠嘆」の声が上がった。
- (4) 何事も「中庸」が肝心なことがある。
- (5) すばらしい管弦楽を「満喫」する。
- (6) 重要事項を「網羅」する。
- (7) 国家の「中枢」で活躍する。
- (8) 気に入った部分を「抄出」する。
- (9) 自然の恵みを「享受」する。
- (10) みその「醸造」方法について調べる。
- (11) 「訴訟」を起こす。
- (12) 日本文化の「精髓」に迫る。
- (13) 新しい時代の「胎動」を感じる。
- (14) 「含蓄」のある言葉を聞いた。
- (15) 「顕著」な変化が見られる。

5 次の文の「 」で示した部分を漢字で書くには、()内のどちらを使うのが正しいか。()内に示した漢字の意味を参考にして考えてみよう。

- (1) 「ぼう」国の大使とひそかに会談する。－「ぼう」(なくなる□□それがし)
- (2) 涙は涙腺からふん「びつ」される。－「びつ」(かならず□□しみる)
- (3) 甲乙丙三者の利害がこう「さく」する。－「さく」(まじる・あやまる□さがしもとめる)
- (4) 翼を広げて「ゆう」ぜんと飛ぶ鳥。－「ゆう」(はるか□□おとこらしい)
- (5) 古い「こう」どうが崩れそうだ。－「こう」(はむかう□□あな)
- (6) ど「じょう」の成分を分析する。－「じょう」(つち□□ばしよ)
- (7) 大豆からしょうゆをつくる「かてい」を見学した。－「か」(しごとのわりあて□□すぎる)
- (8) 彼の「き」てんにより窮地を脱した。－「き」(はたらき□□おきる)
- (9) 交渉が「ふん」きゅうしてまとまらない。－「ふん」(いりまじる□□ふきだす)

- (10) 風邪から気管支炎を「へい」はつした。 — 「へい」(あわせる□□ならば)
- 6 次の文の「 」で示した部分を漢字で書くには、()の中のどちらを使うのが正しいか。また、正しくないほうは、どういう場合に使うか、調べてみよう。

A. 同音の漢字

- (1) 治療の結果、「かんち」した。(あずかりしる□□病気やけがが完全に治る)
- (2) 収賄事件を「きゅうめい」する。(道理を究めて明らかにする□□問いただき明らかにする)
- (3) 地域が「いったい」となった祭り。(ひとつのまとまり□□そのあたり)
- (4) 「こくさい」を発行する。(国々の関係□□国の債務)
- (5) この建物の「がいかん」は美しい。(外から見た様子□□全体のあらまし)
- (6) 問題は「いがい」に易しかった。(そのほか□□思いのほか)
- (7) この自然は人類「きょうゆう」の財産だ。(うまれもつ□□一緒にもつ)
- (8) 「きじょう」の空論にならないか心配だ。(飛行機の中□□机の上)
- (9) 彼に研究を「いしょく」する。(任せ頼む□□植え替える)
- (10) 「ふへん」性のある考えを持とう。(広くゆきわたる□□かたよりがない)

B. 同訓の漢字

- (1) 親の敵を「う」ちとる。 — 「う__つ」(だ□□とう)
- (2) ご飯が「む」れたら食べよう。 — 「む__れる」(じょう□□ぐん)
- (3) はさみで布地を「た」つ。 — 「た__つ」(さい□□だん□□ぜつ)
- (4) 物事の本質を「きわ」める。 — 「きわ__める」(きゅう□□きよく)
- (5) 打球は弧を描いて「と」んだ。 — 「と__ぶ」(ひ□□ちょう)
- (6) 湖畔の別荘に友人を「たず」ねる。 — 「たず__ねる」(ほう□□じん)
- (7) 風「かお」る季節 — 「かお__る」(こう□□くん)
- (8) 法を「おか」してはならない。 — 「おか__す」(はん□□しん)
- (9) 風雪に「た」えた古い邸宅 — 「た__える」(たい□□じん)
- (10) 軽率な行動を「かえり」みる — 「かえり__みる」(せい□□こ)

資料30 漢字の学習4 (3年 P.196~197)

- 1 傍線部を「 」で囲んで示す。
- 2 次の例のうち、「明暗」は反対の意味の漢字を組み合わせた熟語である。(1)~(3)の熟語のうち、反対の意味の漢字を組み合わせてできたものはどれだろうか。

(例) とうめい(すきとおる) □□めいあん(あかるい・くらい) □□あんしょう(そらでいう)

 - (1) とっしん□□しんたい□□たいじょう
 - (2) せいてん□□てんち□□じめん
 - (3) しんちょう□□ちょうたん□□たんしょ
- 3 次の(1)~(5)の組み立てと同じものをあとの語群の中から選ぼう。
 - (1) かふく(わざわい・しあわせ) □□うむ(ある・ない) □□けいちょう(おめでたい・とむらい) □□しんぎ(まこと・いつわり) — 比較対照
 - (2) じょう(そだてる・やしなう) □□こうりゅう(とらえる・とどめる) □□じょうよ(そのうえ・あまり) □□ばくろ(あばく・あらわにする) □□しゅうてい(ふね・ほそながいふね) — 列挙
 - (3) じしん(じめん・ふるえる) □□らいめい(かみなり・なる) □□ずつう(あたま・いたむ)

□□じんぞう (ひと・つくる) - 主語・述語

(4) がくばつ (がくもん・同じ出身のもの) □□ちそ (とち・ぜいきん) □□ごうきゅう (つよい・ゆみ) □□がくふ (おんがく・書き表したもの) □□ざんてい (しばらくの間・さだめる) □□きほう (くうき・あわ) - 修飾・被修飾

(5) ほうすい (はなつ・みず) □□とくめい (かくす・なまえ) □□ちゅうしゃ (とめる・くるま) - 後が前の目的語
(語群)

たいよ

どくしよ

ぎけい

てんぷ (うまれつき)

こうせつ (上手と下手)

資料31 漢字の学習5 (3年 P.224~226)

(P.224上4行目~9行目)

罷免□□約款□□所轄□□嗣子 (あととり) □□批准□□殉職 (職務のために死ぬこと) □□婚姻□□嫡流□□窃盗□□逮捕□□扶養 (やしなう) □□寄付□□猶予□□懐胎□□拐帯 (おうりょう) □□弾劾□□戸籍謄本□□情状酌量 など

(P.224上15行目~下11行目)

呉服□□発酵 (酵素による分解現象) □□拷問□□威嚇□□賠償□□更迭 (役目の人をかえること) □□種痘□□いかん (軍人の階級) □□謁見 (高貴な人にお目にかかること) □□紡錘 (糸を紡ぎながら巻き取る装置) □□銑鉄 (くずてつ) □□隆起□□遵守 □□統帥 (軍隊を指揮, 統率すること) □□硫酸□□一喝 (ひとこえ怒鳴ること) □□矯正 (欠点を直すこと) □□棧橋□□老翁 (年老いた男) □□王侯 (王と諸侯) □□塑像 □□薪炭 (薪と炭) □□搭載 (装備されていること) □□駐屯□□俸給□□令嬢 (他人の娘の敬称) □□赤痢 □□抹消 (消すこと) □□貞淑□□愚痴□□膨張 (ふくれあがること) □□老婆□□儒学□□…崎 (みさき) □□詐欺 □□法曹界 (法律業務に従事する仲間) □□奴隸□□妊娠□□凹凸□□虞□□尼□□唐 (から) □□窯 (よう) □□乙□□丙

(P.225 上2行目~6行目)

「いおう」 - 「りゅう」 (いおう) □□「こう・おう (き)」

「いくじ」 - 「い」 (こころ) □□「き」 (「きりよく」の「き») □□「ち・じ」

「うなばら」 - 「かい (うみ)」 □□「げん (はら)」

「うば」 - 「にゅう (ちち)」 □□「ぼ (はは)」

「うわ__つく」 - 「ふ (う__く・う__かれ)」 □□「き」 (「きもち」の「き」)

「おとめ」 - 「おつ」 (わかい) □□「じよ・によ (おんな・め)」

「おば」 - 「しゅく」 (父母の妹) または「はく」 (父母の姉) □□「ぼ (はは)」

お「まわ__り」さん - 「じゅん (めぐ__る)」

「かわせ」 - 「い」 (おこなう) □□「たい (か__わる・か__える)」

「さおとめ」 - 「そう・さつ (はや__い)」 □□「おつ」 (わかい) □□「じよ・によ (おんな・め)」

「さ__しつか__える」 - 「さ (さ__す)」 □□「し (ささ__える)」

「さつきば__れ」 - 漢数字の「5」 □□「げつ・がつ (つき)」 □□「せい (は__れる・は__らす)」

「さなえ」 - 「そう・さつ (はや__い)」 □□「びょう (なえ)」

「しゃみせん」－漢数字の「3」□□「み(あじ)」□□「せん(いとすじ)」
「じゃり」－「さ・しゃ(すな)」□□「り(き__く)」
「しらが」－「はく(しろ・しら・しろ__い)」□□「はつ(かみ)」
「すもう」－「そう・しょう(あい)」□□「ぼう(なぐりあう)」
「ぞうり」－「そう(くさ)」□□「り(は__く)」
「た__ちの__く」－「りつ(た__つ)」□□「たい(しりぞ__く)」
「たび」－「そく(あし)」□□「たい(ふくろ)」
「でこぼこ」－「とつ(でっぱり)」□□「おう(へこみ)」
「なだれ」－「せつ(ゆき)」□□「ほう(くず__れる)」
「はとば」－「は(なみ)」□□「し(と__まる・と__める)」□□「じょう(ば)」
「ひより」－「にち・じつ(ひ・か)」□□「わ(やわ__らぐ・なご__む)」
「もめん」－「ぼく・もく(き・こ)」□□「めん(わた)」
「もよ__り」－「さい(もつと__も)」□□「き(よ__る・よ__せる)」

(P. 225 上17行目～下8行目)

ところで、この俳句では「こがらし」を漢字一字で書き表している。これは、日本で作られた漢字であり、部首の「かぜ」と「木」を組み合わせた会意文字である。……「なぎ」は部首の「かぜ」と「やむ」の会意文字で、風がやんで波が静かなことを表す。「たこ」は、部首の「かぜ」と「ぬの」の会意文字で、……。

(P. 226 上9～13行目)

「はたら__く・どう」□□「こ__める・こ__む」□□「はたけ」□□「とうげ」□□「もんめ」
□□「わく」□□「しば__る・さく」
などのほか、次のようなものがある。

「おもかげ」□□「かし」□□「さかき」□□「かみしも」□□「しずく」□□「しつけ」□□「はたけ」□□「いわし」□□「たら」

(P. 226 下5行目)

さんずいに あまい － じゅーす
かねへんに しょうがつ － おとしだま
あしへんに まめ － くつずれ

資料32 漢字の使い方に慣れよう (3年 P. 266～275)

－ ここには、漢字の知識を豊富にするための問題を集めてある。適宜取り組んでみよう。

- 1 「 」で示した漢字の意味を考えよう。
 - (1) 我を忘れて試合「観」戦に熱中する。
 - (2) 「異」国の地に骨をうずめる決意をした。
 - (3) 「家」具の寸法を測る。
 - (4) 日本語の起「源」を探る試みが、研究者によって続けられている。
 - (5) 試験の「翌」日、家族でドライブに行った。
 - (6) 彼の「提」案に沿って計画を進めた。
 - (7) 憲法に明記されているように、基本的人「権」は尊重されなければならない。
- 2 次に挙げる熟語は反対の意味の漢字を組み合わせたものである。例にならって、それぞれの漢字の意味を考えよう。

(例) めいあん (あかるい・くらい)

- (1) はっちやく
- (2) かいへい
- (3) かんまん
- (4) あさばん
- (5) こうぼう
- (6) せいご

3 次の(1)~(4)の「 」で示した部分は同じ漢字である。漢字の意味を考えてみよう。

- (1) つう「きん」□□「きん」む□□しゅつ「きん」□□「きん」ろう
- (2) ざい「ほう」□□「ほう」せき□□「ほう」こ□□ちょう「ほう」
- (3) ね「だん」□□「だん」らく□□「だん」かい□□いし「だん」
- (4) たん「じゅん」□□「じゅん」じょう□□「じゅん」きん□せい「じゅん」

4 同じ漢字でも読み方が違うことに注意して、漢字の熟語による「しりとり」をやってみよう。

□□さんちょう→ちょうじょう→じょうえい→えいが→がめん→めんしき→しきべつ→べっさつ→さ

っし→こども→きょうきゅう→きゅうりょう→りょうり→りかい→かいほう

5 次の漢字の音訓を参考にして、その漢字を使った熟語を作ってみよう。

(例) 「あん (やす__い)」 - あんしん

- (1) 「い (うつ__る)」
- (2) 「うん (はこ__ぶ)」
- (3) 「えん (の__ばす□の__びる)」
- (4) 「おん (あたた__かい□あたた__める)」
- (5) 「か (す__ぎる□す__ごす)」
- (6) 「き (とうと__い)」
- (7) 「く (くる__しい□にが__い)」
- (8) 「けい (うやま__う)」
- (9) 「こう (ふ__る□お__りる)」
- (10) 「さい (た__つ□さば__く)」
- (11) 「しゅく (ちち__む)」
- (12) 「すい (お__す)」
- (13) 「せい (ただ__しい)」
- (14) 「そう (おも__う)」

6 「 」で示した漢字の意味を考えよう。

- (1) 郵便「局」で切手を買う。
- (2) 幕「末」の志士を描いた歴史小説。
- (3) 母は学生時代、「演」劇部で活躍した。
- (4) 底辺から垂「直」に線を引く。
- (5) 委「員」会活動に意欲的に取り組む。
- (6) 地球上には多くの「未」開地が存在する。
- (7) 机の上を「整」理する。
- (8) 庭先にありの巣穴を発「見」した。
- (9) 長い間正「座」をしていたら、足がしびれた。

- (10) 空を灰色の雲が覆い、豪「雨」になった。
- (11) 砂時計で「時」間を計る。
- (12) 磁石を利「用」したおもちゃを作る。
- (13) 班「長」の指示に従う。
- (14) 君と僕だけの「秘」密にしよう。
- (15) 9回裏で逆転し、接「戦」を制した。

7 「 」で示した熟語の意味を調べよう。

- (1) 盲導犬は「忠実」な犬だ。
- (2) 今年はある有名な作家の「生誕」百年にあたる。
- (3) わたしの孫は電車の「模型」で遊ぶのが好きだ。
- (4) 図書館で彼の「著作」を探した。
- (5) あなたは「将来」何になりたいですか。
- (6) 不要になった雑誌を「処分」した。
- (7) 「筋力」トレーニングをする。
- (8) 「胸囲」を測定した。

8 同じ読み方でも、意味によって違う漢字を使う。次の各組の「 」で示した語の意味として()内から適切なものを選ぼう。

- (1)
 - ア. 写真に「うつる」
 - イ. 月が水面に「うつる」
 - ウ. 季節が「うつる」
 (とられる□□違う状態になる□□その姿が像を結ぶ)

- (2)
 - ア. 完成に「つとめる」
 - イ. 議長を「つとめる」
 - ウ. 会社に「つとめる」
 (勤務する□□役目にあたる□□努力する)

9 次の(1)~(7)の「 」どうし、〈 〉どうしは、読み方は同じだが異なる漢字である。それぞれの漢字の意味を考えよう。 〈 〉は第2カギ

- (1) ひゃっ「か」じ〈てん〉□□〈てん〉じのほん□□きん「か」10まい
- (2) 「けい」さつ〈しよ〉□□そん「けい」する□□いず〈しよ〉とう
- (3) 「てん」〈らん〉かい□□「てん」きんする□□〈らん〉ぼう
- (4) 「さく」〈し〉か□□たい「さく」をたてる□□〈し〉やをひろげる
- (5) 「ほう」〈か〉ご□□「ほう」もん□□こう〈か〉てきめん
- (6) じ「こく」〈ひょう〉□□「こく」もつ□□〈ひょう〉ほん
- (7) 「さい」ばん〈かん〉□□へん「さい」する□□〈かん〉ばん

10 次のA群とB群の熟語を組み合わせ、例にならって、漢字4字の熟語を作ってみよう。

(例) 国際交流

- | | |
|------|-------|
| A群 | B群 |
| こくさい | かくめい |
| こうつう | こうりゅう |

| | |
|-------|-------|
| こうごう | じこ |
| さんぎょう | へいか |
| おんせん | じてん |
| うちゅう | ゆゑい |
| ひゃっか | けんちく |
| 4しゃ | じゅんえん |
| おくまん | りょこう |
| こうそう | 5にゅう |
| はっしゃ | ちょうじゃ |
| うてん | じこく |
| えんよう | ほどう |
| おうだん | ぎょぎょう |

11 「 」で示した漢字を使って熟語を作ってみよう。

- (1) オーケストラの演奏「会」に行く。
- (2) この「作」品で彼は世に認められた。
- (3) 母の作る卵料理は「絶」品だ。
- (4) 弟は近ごろ「急」に背が伸びた。
- (5) 滑らかな絹のスカーフを「母」に贈った。
- (6) 「自」宅から駅までは徒歩八分だ。
- (7) 大学で「法」律を学び、弁護士を目ざす。
- (8) 片「道」だけの切符を買って、旅に出た。
- (9) 「厳」格な父に、礼儀作法をしつけられた。
- (10) 切り株に腰を下ろし、ひと「休__み」する。
- (11) 興奮した観客が「総」立ちになる。
- (12) 運動会の障「害」物競走に出場する。
- (13) 実「力」を発揮できるように祈る。
- (14) 組織の「改」革を推進した人々。

12 (1)～(9)の「 」で示した部分は同じ部首を持つ漢字である。このほかに同じ部首を持つ漢字を考えてみよう。

- (1) てへん — 「かく」だいする□□し「き」する□□「じゅ」よする
- (2) ごんべん — がつきゅうにつ「し」□□ほん「やく」する□□「せい」じつな人
- (3) いとへん — 「こう」ちゃ□□「しゅく」しょうする□□「のう」ぜいしゃ
- (4) くさかんむり — 「じゃく」ねんしゃ□□「に」もつ□□「くさ」
- (5) おおざと — 「ぐん」(町や村の集まり) □□「みやこ」□□「ゆう」びん
- (6) たけかんむり — 「かん」りやくか□□「ふえ」□□びょう「どう」
- (7) したごころ — 「ちゅう」じつ□□「ぼう」きゃく□□「こころざし」
- (8) しんにょう — 「ゆい」ごん□□「うん」ぱん□□けん「ぞう」ぶつ
- (9) にんべん — 「じん」ぎ□□「はい」く□□「あたい」

13 例にならって、それぞれの漢字の反対の意味の漢字を考え、漢字二字の熟語を作ろう。

(例) てい(ひく__い) → こうてい

- (1) かん(さむ__い)

- (2) ぞう (ま__す)
- (3) こう (おおやけ)
- (4) ばい (か__う)
- (5) しん (すす__む)
- (6) ふ (ま__ける)
- (7) い (やさ__しい)
- (8) おう (よこ)

14 次の(1)~(3)の「 」で示した部分は同じ漢字である。例にならって、漢字の意味を考えよう。

(例) めん「せつ」□□「せつ」 ちゃく□□「せつ」 ぞく□□ちやく「せつ」 → せっしていること

- (1) ふく「そう」□□「そう」 び□□「そう」 ち□□ぶ「そう」 →
- (2) かい「ぜん」□□「ぜん」 りょう□□「ぜん」 あく□□しん「ぜん」 →
- (3) うん「ちん」□□「ちん」 たい□□「ちん」 ぎん□□や「ちん」 →

15 次の(1)~(3)は、漢字を訓で読んだときに同じ送りがなになるものをグループ分けしたものである。例にならって、ほかにも同じ送りがなの漢字を挙げてみよう。

(例) 「こう (あつ__い)」□□「じゃく (わか__い)」□□「あく・お (わる__い)」□□「あん (やす__い)」

- (1) 「しゃ (い__る)」□□「こん (こま__る)」□□「しょく (お__る)」□□「こう (ふ__る・お__りる)」
- (2) 「さい (す__む)」□□「ぼう (のぞ__む)」□□「こく (きざ__む)」□□「へん (あ__む)」
- (3) 「しょう (まね__く)」□□「じょ (のぞ__く)」□□「かん (まき・ま__く)」□□「ちく (き__ず__く)」

16 例にしたがって、漢字一字に相当する適切な語を()内から選び、熟語を完成させよう。

(例)

- ア. ねん□じょう → ねんがじょう
- イ. きょうみ □い → きょうみ ほんい
- ウ. にゅうがく □けん → にゅうがく しけん
(が□□ほん□□し)

(1)

- ア. せん□ ちしき
- イ. ひゃくてん □てん
- ウ. しつ□ おうとう
- エ. こうしゅう □せい
(まん□□えい□□ぎ□□もん)

(2)

- ア. さんび □ろん
- イ. そう□し
- ウ. すい□き
- エ. しんようじゅ□
(じゅう□□じょう□□りん□□りょう)

17 「 」で示した漢字を使って熟語を作ってみよう。

- (1) 地球は太陽系の惑「星」の一つだ。

- (2) 兄は今、就「職」活動に忙しい。
- (3) この地域は、かつて「養」蚕が盛んだった。
- (4) 点「呼」を取って人数を調べる。
- (5) 姉の後ろ「姿」は母にそっくりだ。
- (6) 古い城「下」町を訪ねる。
- (7) 遺「伝」子に関する研究が急速に進む。
- (8) 「勝」利に導く頭脳プレー。
- (9) ごみを減らす方法を「検」討する。
- (10) 国際連合に「加」盟する。
- (12) 痛いところを突かれ、「返」答に窮した。

18 「 」で示した熟語の意味として適切なものを () の中から選ぼう。

(1) 「しかく」

ア. 「しかく」的効果をねらった作品

イ. 「しかく」取得のため、勉学に励む。

(目で見えて知る感覚□□身分や地位や立場)

(2) 「ないぞう」

ア. フラッシュを「ないぞう」したカメラ

イ. 肺は「ないぞう」のひとつだ。

(中に持っている□□体の中の臓器)

(3) 「せいしょ」

ア. 「せいしょ」の創生記を読む。

イ. 報告書を「せいしょ」する。

(キリスト教の聖典□□きれいに書くこと)

(4) 「けんしょう」

ア. 児童「けんしょう」を制定する。

イ. 仮説を実験によって「けんしょう」する。

(実際に調べて証明すること□□重要なおきて)

(5) 「いじょう」

ア. 37度「いじょう」の熱がある。

イ. 今年の夏の暑さは「いじょう」だ。

(それよりも上□□なみはずれたさま)

(6) 「かくしん」

ア. この試合の勝利を「かくしん」する。

イ. 技術「かくしん」が起こった。

(かたく信じる□□あたらしくする)

(7) 「かんしょう」

ア. 卒業を前に「かんしょう」にふける。

イ. 名月を「かんしょう」する。

(見て楽しむ□□感じて心をいためること)

19 漢字の意味を考えながら、熟語のしりとりをしよう。

□□がいぶ→ぶぶん→ぶんるい→るいすい→すいしん→しんてん→てんかい→かいじょう→じょうな

い→ないかく→かくぎ→ぎろん→ろんり→りかい→かいじょ→じょがい→がいぶ

20 「 」で示した漢字はそれぞれ共通の部首を持つ。熟語の意味を参考にしてそれぞれの漢字の意味を考えよう。

- (1) まだれ — きしよゝ「ちょう」□□じゅん「じょ」□□ぱく「ふ」□□そう「こ」
- (2) うかんむり — 「じっ」けん□□「しゅう」きょう□□「せん」でん□□ひ「みつ」
- (3) さんずい — でん「ち」□□「せん」がん□□「まん」ちょう□□「ほう」りつ
- (4) きへん — だんらく「こう」せい□□「けん」り□□てつ「ぼう」□□「まい」すう
- (5) てへん — 「すい」そく□□「たん」けんたい□□ラジオたい「そう」□□さん「ばい」

21 「 」で示した漢字を使って熟語を作ってみよう。

- (1) 「幼__い」子どもがおもちゃを欲しがる。
- (2) 教科書の詩を朗「読」する。
- (3) 母は竹を割ったような「性」格だ。
- (4) 巻尺を使って「長__さ」を測る。
- (5) 大勢の若者が店の「前」に並んでいる。
- (6) 保「健」室で肺活量を測定した。
- (7) 大至急、回「覧」板を回して下さい。
- (8) 日が暮れて、窓の外が「暗__く」なった。
- (9) 「白__い」布を赤く染める。
- (10) 生徒会「長」に立候補する。
- (11) 「土」が盛り上がりって芽が出た。
- (12) 「注」文の品をすぐに届ける。
- (13) 漢字四字からなる熟「語」を書く。
- (14) チーズなどの「乳」製品は、体にいい。

22 次の(1)~(7)の「 」で示した熟語は同じ部首を持つ二字の漢字からなっている。熟語の意味を調べ、漢字の意味を考えよう。

- (1) 仲のよい「姉妹」。
- (2) 住んでいる「地域」。
- (3) 「鋼鉄」のように硬い。
- (4) 強い「意志」を胸に秘める。
- (5) 「客室」乗務員。
- (6) 僕は「俳優」になりたい。
- (7) 新しい雑誌が「創刊」された。

23 次の文の「 」で示した部分を漢字で書くには、()内のどちらを使うのが正しいだろうか。選んでみよう。

- (1) 親「こう」こうをする。□□ (かんがえる□□つくす)
- (2) 神が宇宙を「そう」ぞうしたのだろうか。□□ (おもう□□つくる)
- (3) 厳しい「ひ」はんを受ける。□□ (くらべる□□値打ちをきめる)
- (4) 「ふく」つうを訴えて欠席した。□□ (はら□□いりくんだ)
- (5) ひさしぶりにき「きょう」する。□□ (さかい□□ふるさと)
- (6) 需要と「きょう」きゅう。□□ (そなえる□□ともに)
- (7) きゅう「げき」に増加している。□□ (はげしい□□強い)

- (8) 外国に「は」けんする。□□ (ゆかせる□□やぶる)
- (9) 遠足は雨で「えん」きされた。□□ (そう□□のばす)
- (10) 問題は「かん」たんにとけた。□□ (てがる□□かかわる)
- (11) 同じ「けい」れつの会社。□□ (つながり□□かかり)
- (12) 知人の家を「ほう」もんする。□□ (むき□□おとずれる)

24 空欄に適切な漢字一字に相当する語を入れて、反対の意味を表す熟語になるようにしよう。

- (1) あんぜん ↔ □けん
- (2) ていれい ↔ □じ
- (3) かけつ ↔ □けつ
- (4) しゅくしょう ↔ □だい
- (5) あくにん ↔ □にん
- (6) ようい ↔ こん□

25 次の各組の同音異義語の意味を調べよう。

- (1) ちきゅうの「じてん」□□「じてん」で調べる。
- (2) 「ししん」をさだめる。□□この手紙は「ししん」です。
- (3) 君が主人公だと「かてい」する。□□実験の「かてい」を報告する。
- (4) 腰に「たんとう」を提げる。□□仕事の「たんとう」を決める。
- (5) 「じこ」紹介□□交通「じこ」
- (6) 駅前にスーパーが「かいてん」した。□□ボールの「かいてん」が速い
- (7) 「りょうしん」にしかられる。□□「りょうしん」てきな商売
- (8) 反対意見も「そんちょう」する。□□私がこの村の「そんちょう」です。
- (9) 「とうぶん」が多く含まれている。□□ケーキを6「とうぶん」にきる。
- (10) 「おんしつ」栽培の花□□このラジオは「おんしつ」がよい。
- (11) 「きょうだい」げんか□□「きょうだい」の前で化粧をする。
- (12) 支持する「せいとう」□□「せいとう」な理由
- (13) 「きゅうしゅう」に旅行する。□□水分が「きゅうしゅう」される。

26 ()内の意味になるように、空欄に適切な漢字一字に相当する語を入れて熟語を完成させよう。

- (1) □じん (うまいひと)
- (2) □り難題 (道理に外れたいいがかり)
- (3) □ど (国の土地)
- (4) □りゅう (みなもとの流れ)
- (5) げん□ (いずみ)
- (6) □てき (強いてき)
- (7) □強 (ふやし強める)
- (8) ぞう□ (まし大きくする)
- (9) □さくもつ (田や畑などでとれたもの)
- (10) □ばせん (暴風雨などにあつて進路を失った船)
- (11) じゅん□ゆ (機械などが滑らかに動くようにさす油)
- (12) むが□ちゅう (我を忘れて熱中すること)
- (13) こく□ こうりゅう (国どうしのかかわりあい)
- (14) こうつう □かん (人やものの移動に使う手段)

(15) ゆだん □てき (油断を戒めることば)

資料33 常用漢字表 付表 (3年 P.293)

- 「明日」 - 「めい・みょう (あか__るい)」 □□ 「にち・じつ (ひ・か)」
「小豆」 - 「しょう (ちい__さい)」 □□ 「とう・ず (まめ)」
「海女」 - 「かい (うみ)」 □□ 「じょ・によ (おんな・め)」
「硫黄」 - 「りゅう」 (いおう) □□ 「こう・おう (き)」
「意気地」 - 「い (こころ) □□ 「き」 (「きりよく」の「き) □□ 「ち・じ」
「一言居士」 - 漢数字の「1」 □□ 「げん・ごん (い__う・こと)」 □□
「きよ (い__る)」 □□ 「し」 (さむらい)
「田舎」 - 「でん (た)」 □□ 「しゃ」 (いえ)
「息吹」 - 「そく (いき)」 □□ 「すい (ふ__く)」
「海原」 - 「かい (うみ)」 □□ 「げん (はら)」
「乳母」 - 「にゅう (ちち)」 □□ 「ぼ (はは)」
「浮気」 - 「ふ (う__く・う__かれ)」 □□ 「き」 (「きもち」の「き)」
「浮__つく」 - 「ふ (う__く・う__かれ)」
「笑顔」 - 「しょう (わら__う・え__む)」 □□ 「がん (かお)」
お「母」さん - 「ぼ (はは)」
「おじ」 - 「しゅく」 (父母の弟) または「はく」 (父母の兄) □□ 「ふ (ちち)」
お「父」さん - 「ふ (ちち)」
「大人」 - 「だい (おお__きい)」 □□ 「じん・にん (ひと)」
「乙女」 - 「おつ」 (わかい) □□ 「じょ・によ (おんな・め)」
「おば」 - 「しゅく」 (父母の妹) または「はく」 (父母の姉) □□ 「ぼ (はは)」
お「巡__り」さん - 「じゅん (めぐ__る)」
お「神酒」 - 「しん・じん (かみ)」 □□ 「しゅ (さけ)」
「おもや」 - 「ぼ (はは)」 □□ 「おく (や)」 または「か・け (いえ・や)」
「神楽」 - 「しん・じん (かみ)」 □□ 「がく・らく (たの__しい・たの__しむ)」
「河岸」 - 「か (かわ)」 □□ 「がん (きし)」
「風邪」 - 「ふう (かぜ・かざ)」 □□ 「じゃ」 (よこしまな)
「仮名」 - 「か・け (かり)」 □□ 「めい・みょう (な)」
「蚊帳」 - 「か」 (こんちゅう) □□ 「ちょう」 (とぼり)
「為替」 - 「い」 (おこなう) □□ 「たい (か__わる・か__える)」
「かわら」 - 「か (かわ)」 または「せん (かわ)」 □□ 「げん (はら)」
「昨日」 - 「さく」 (きのう) □□ 「にち・じつ (ひ・か)」
「今日」 - 「こん・きん (いま)」 □□ 「にち・じつ (ひ・か)」
「果物」 - 「か (は__たす・は__てる)」 □□ 「ぶつ・もつ (もの)」
「玄人」 - 「げん」 (「げんかん」の「げん) □□ 「じん・にん (ひと)」
「今朝」 - 「こん・きん (いま)」 □□ 「ちょう (あさ)」
「景色」 - 「けい」 (ようす) □□ 「しょく・しき (いろ)」
「心地」 - 「しん (こころ)」 □□ 「ち・じ」
「今年」 - 「こん・きん (いま)」 □□ 「ねん (とし)」

「早乙女」 - 「そう・さつ (はや__い)」 □□ 「おつ」 (わかい) □□ 「じよ・によ
(おんな・め)」

「雑魚」 - 「ぞつ・ぞう」 □□ 「ぎよ (うお・さかな)」

「栈敷」 - 「さん」 (床板のための横木) □□ 「ふ (し__く)」

「差__し支__える」 - 「さ (さ__す)」 □□ 「し (ささ__える)」

「五月晴__れ」 - 漢数字の「5」 □□ 「げつ・がつ (つき)」 □□
「せい (は__れる・は__らす)」

「早苗」 - 「そう・さつ (はや__い)」 □□ 「びょう (なえ)」

「五月雨」 - 漢数字の「5」 □□ 「げつ・がつ (つき)」 □□ 「う (あめ)」

「時雨」 - 「じ (とき)」 □□ 「う (あめ)」

「竹刀」 - 「ちく (たけ)」 □□ 「とう (かたな)」

「芝生」 - 「しば (しばくさ) □□ 「せい・しょう (い__きる・は__える)」

「清水」 - 「せい (きよ__い・きよ__まる)」 □□ 「すい (みず)」

「三味線」 - 漢数字の「3」 □□ 「み (あじ)」 □□ 「せん」 (いとすじ)

「砂利」 - 「さ・しゃ (すな)」 □□ 「り (き__く)」

「数珠」 - 「すう (かず・かぞ__える)」 □□ 「しゆ」 (たま)

「上手」 - 「じょう (うえ・うわ・かみ)」 □□ 「しゆ (て・た)」

「白髪」 - 「はく (しろ・しら・しろ__い)」 □□ 「はつ (かみ)」

「素人」 - 「そ・す」 □□ 「じん・にん (ひと)」

「師走」 - 「し」 (せんせい) □□ 「そう (はし__る)」

「数寄屋」 - 「すう (かず・かぞ__える)」 □□ 「き (よ__る・よ__せる)」 または
「き」 (めずらしい) □□ 「おく (や)」

「相撲」 - 「そう・しょう (あい)」 □□ 「ぼく」 (なぐりあう)

「草履」 - 「そう (くさ)」 □□ 「り (は__く)」

「山車」 - 「さん (やま)」 □□ 「しゃ (くるま)」

「太刀」 - 「たい (ふと__い)」 □□ 「とう (かたな)」

「立__ち退__く」 - 「りつ (た__つ)」 □□ 「たい (しりぞ__く)」

「七夕」 - 漢数字の「7」 □□ 「せき・ゆう」

「足袋」 - 「そく (あし)」 □□ 「たい (ふくろ)」

「稚児」 - 「ち」 (おさない) □□ 「じ・に」 (こども)

「一日」 - 漢数字の「1」 □□ 「にち・じつ (ひ・か)」

「築山」 - 「ちく (きず__く)」 □□ 「さん (やま)」

「梅雨」 - 「ばい (うめ)」 □□ 「う (あめ)」

「凸凹」 - 「とつ」 (でっぱり) □□ 「おう」 (へこみ)

「手伝__う」 - 「しゆ (て・た)」 □□ 「でん (つた__わる・つた__える)」

「伝馬船」 - 「でん (つた__わる・つた__える)」 □□ 「ば (うま)」 □□
「せん (ふね・ふな)」

「投網」 - 「とう (な__げる)」 □□ 「もう (あみ)」

「十重二十重」 - 漢数字の「10」 □□ 「じゅう・ちょう (え・おも__い)」 □□
漢数字の「20」 □□ 「じゅう・ちょう (え・おも__い)」

「読経」 - 「どく・とく・とう (よ__む)」 □□ 「けい・きょう (へ__る)」

「時計」－「じ(とき)」□□「けい(はか__る・はか__らう)」
「友達」－「ゆう(とも)」□□「たつ(人の複数を示す接尾辞)」
「仲人」－「ちゅう(なか)」□□「じん・にん(ひと)」
「名残」－「めい・みょう(な)」□□「ざん(のこ__る・のこ__す)」
「雪崩」－「せつ(ゆき)」□□「ほう(くず__れる)」
「兄」さん－「けい・きょう(あに)」
「姉」さん－「し(あね)」
「野良」－「や(の)」□□「りょう(よ__い)」
「祝詞」－「しゅく(いわ__う)」□□「し(ことば)」
「博士」－「はく(広く通じる)」□□「し(学問のある人)」
「はたち」－漢数字の「20」□□または漢数字の「20」と□「さい・せい」
「二十日」－漢数字の「20」「にち・じつ(ひ・か)」
「波止場」－「は(なみ)」□□「し(と__まる・と__める)」□□「じょう(ば)」
「一人」－漢数字の「1」□□「じん・にん(ひと)」
「日和」－「にち・じつ(ひ・か)」□□「わ(やわ__らぐ・なご__む)」
「二人」－漢数字の「2」□□「じん・にん(ひと)」
「二日」－漢数字の「2」□□「にち・じつ(ひ・か)」
「吹雪」－「すい(ふ__く)」□□「せつ(ゆき)」
「下手」－「か・げ(した・しも)」□□「しゅ(て・た)」
「部屋」－「ぶ(わける)」□□「おく(や)」
「迷子」－「めい(まよ__う)」□□「し・す(こ)」
「真っ赤」－「しん(ま)」□□「せき(あか・あか__い)」
「真っ青」－「しん(ま)」□□「せい(あお・あお__い)」
「土産」－「ど(つち)」□□「さん(う__む・う__まれる)」
「息子」－「そく(いき)」□□「し・す(こ)」
「眼鏡」－「がん・げん(まなこ)」□□「きょう(かがみ)」
「猛者」－「もう(たけだけしい)」□□「しゃ(もの)」
「紅葉」－「こう・く(べに・くれない)」□□「よう(は)」
「木綿」－「ぼく・もく(き・こ)」□□「めん(わた)」
「最寄__り」－「さい(もつと__も)」□□「き(よ__る・よ__せる)」
「八百長」－漢数字の「800」□□「ちょう(なが__い)」
「八百屋」－漢数字の「800」□□「おく(や)」
「大和」－「だい・たい(おお・おお__きい)」□□「わ(やわ__らぐ・なご__む)」
「浴衣」－「よく(あ__びる・あ__びせる)」□□「い(ころも)」
「行方」－「こう・ぎょう(い__く・ゆ__く)」□□「ほう(かた)」
「寄席」－「き(よ__る・よ__せる)」□□「せき(座る場所)」
「若人」－「じゃく・にやく(わか__い)」□□「じん・にん(ひと)」